シルクレポート 2015. 11 月号

No.45 >>> Contents

●提携トピックス

「千總純国産絹製品販売・商品開発グループ」の活動状況
・・・・・・・・・・・・ 株式会社野村総合研究所　上級研究員　梅原郁恵 ―― ❶

●蚕糸絹トピックス

明治初期の信濃国と甲斐国蚕種紙を南フランスで発見！
・・・・・・・・・・・・ アンティークストッキング収集研究家　鴇田　章 ―― ❼

●国内情報

シルク遺産を訪ねて㉔
片倉館・・・実業家による最初期の公共福利厚生施設
・・・・・・・・・・・・・・・ 東京産業考古学会　副会長　平井　東幸 ―― ⓭

●シルク豆辞典

繭の大きさと繭糸の長さ・・ 東京農工大学農学部蚕学研究室　准教授　横山　岳 ―― ⓱

●研究・技術情報

繭糸の低分子タンパク質
・・・ 一般財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学研究所　主任研究員　栗岡　聡 ―― ㉓

●イベント情報 ―― ㉖

●提携支援センターから

提携支援センター活動日誌 ―― ㉙
平成 27 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ―― ㉚
純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ―― ㉝

●蚕糸絹関係博物館一覧 ―― ㊵

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧 ―― ㊷

●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧下さい。） ―― ㊺

※「シルクレポート」の記事と統計データは、インターネット（http://www.silk-teikei.jp）でもご覧になれます。

「千總純国産絹製品販売・商品開発グループ」の活動状況

株式会社野村総合研究所
上級研究員　梅原郁恵

本稿は、株式会社千總・株式会社千總友仙工場が国産繭・生糸を使った絹製品生産・販売活動状況の概要を整理したものである。株式会社野村総合研究所では当グループの活動を本格的な提携準備を開始した2006（平成18）年より継続的に側面支援をしてきたため、僭越ながらグループ代表に代わり本稿を執筆している。

1　千總純国産絹製品販売・商品開発グループの活動状況

1．1　弊社がグループを支援するに至るまで

（株）千總では、かねてから日本のきものが日本の繭から作られていない点に疑問を感じ、2004（平成16）年頃から具体的に自ら製糸会社を訪問し、上質の国産生糸をまとまった量入手できないか相談を行ってきた。当時、国としても縮小の一途を辿る国産繭生産の維持・再興を目指し、蚕糸・絹業に係る川上～川下事業者の提携を促進するため各種施策を打っていた。その一環として、2006（平成18）年～2007（平成19）年農林水産省の外郭団体である独立行政法人農畜産業振興機構が調査することとなり、川上・川下提携支援と蚕糸・絹業再生プランの実施のための分析検討を

（株）千總　創業460年記念に各地から集まった提携グループメンバー

（株）野村総合研究所が受託した。

2006（平成 18）年の弊社受託調査の中で、既に提携の取組を始めている事例の一つとして、（株）千總に対してもヒアリングを行い、その結果、委託調査の中で提携構築支援を実施することとなった。調査では、当時提携を開始していた事例のいくつかにヒアリングを行ったが、提携の中心となる人物が川上から川下までの全ての工程をある程度理解し、何より提携に対する強い意欲・動機があるということで、（株）千總が構築しようとしている提携グループに対する支援を行うことに決定した。呉服を販売していてもその生産技術や原糸に関してまで、「売るために必要な情報」という以上に深く理解しているケースは必ずしも多いとは言えず、京都室町の染潰問屋という呉服の製造販売を行う（株）千總の立ち位置は提携を成功させるために非常に重要だと判断した。

1．2　養蚕農家さんとの提携

（株）千總の提携構築上の悩みであり、かつ、弊社ができる支援として、繭生産者の紹介があった。弊社に農協の“つて”があった訳ではないが、受託調査において全国農業協同組合中央会との接点ができたため同会に相談し、農家をご紹介頂くことにした。ただし、国産繭の生産者であれば誰でも良いという訳ではなく、養蚕業の厳しい現実をきちんと認識し、良いものを作ろうという意欲を持った生産者とだけ提携したいという意向があった。“どんな繭でも国産であれば希少価値で売れる”という状況を続けていても仕方がない。衰退傾向にあるからこそ、国内の絹の用途の王道といえる“きもの”を、どの国の糸にも負けない国産の上質な糸で、高級呉服を希少価値ではなく日常的に生産し続けてこそ、養蚕業の存続の可能性が考えられる。このような考えに賛同していただける生産者を捜す必要があった。

通常繭生産は農協単位で実施しているため、生産者個人とは契約できないということは理解していたが、提携グループの意思を十分に理解せず、少しくらい質の低い繭が混ざっても誰のせいかはわからないから大丈夫、といった意識をもった生産者が提携グループに混ざることは避けたかったため、このような要望に応えてくれる“農協の紹介”ではなく“農家の紹介”を依頼した。

その結果、「岩手県が指導者のもと一丸となって生産を行っているので相談してみればよい」とご提案いただき、JA 全農いわてにお願いにあがったところ、「やる気のある人を募りたいということであれば、JA 側で受ける受けないの判断をするのは筋ではない。県の南部の 2 農協に声をかければまとまった量を生産することができるはずなので、まずはそこで生産者に話す機会を設けたい」と快諾をいただいた。これまで、やる気のある農家さんと提携したいと思っていても、「農家個人に直接話すのは難しく農協単位で受けるかどうかの判断にならざるを得ないだろう」とずっと言われてきたため、このとき農家さんに直接話をさせ

ていただけることになり、非常に嬉しかったことをよく覚えている。

岩手県南２農協の養蚕部会メンバーと初めて顔を合わせた会議では、農家さんからはほとんど何もコメントは得られず、伝わったのか、やる気を持っていただけたのかは判断しかねたが、考えた末、農家毎ではなく部会員全員の意思として、２農協の養蚕部会全体で提携を実施することが決定した。会議終了後の懇親会でお酒が入って初めて農家さんの口からやる気と強い問題意識が多いに語られ、安堵したものだった。

１．３　対話による相互理解と提携のルールづくり

提携開始当初は、互いのことが全くわかっていなかった。川下側は農業のこと、特に専門用語の多い養蚕業のことはわからないことだらけであり、加えて方言も聞きとりにくく、専門用語だからわからないのか、方言だからわからないのか、単に聞きとりにくいだけかさえもわからないことがしばしばあった。農家からすると直に買い手と提携をすることがなかったこともあり、商取引の基本的な考え方を理解していなかった。また、そもそも現状の国産繭・国産生糸の質が海外製品と比べて良いのか悪いのか、価格はどの程度違うのか等も知らない状態だった。農協職員であっても、川下と提携することにより農家の収入がアップするという説明を信じ、現状の厳しさを理解していないケースも少なくなかった。「高価なきものを売る業界の利益率が高く大きな収益を上げているにもかかわらず、繭代・生糸価格を低く抑えて農家を苦しめている」と信じている人は非常に多かった。

実際、提携を行ったところで養蚕農家を取り巻く事業環境が大きく改善することは考えにくい。もしも本当に提携するだけで養蚕経営改善が可能であれば、もっと以前から提携が自然発生しているはずであろう。「呉服産業が大きく儲かっているので、提携をすればその利益を養蚕農家に少しでも還元され、農家は潤（うるお）う」かのように農家側には伝えられてきたが、生糸ができてからきものになるまでには、数多くの、養蚕業並みに経営環境の苦しい手仕事の工程があり、少なくとも呉服メーカーまでのサプライチェーン上には大きく儲かっているところはない。

ご案内の通り、繭代にはもともと多くの補助金がついていたため、提携活動に国の補助金が出ている間はこれまでとあまり変わらぬ資金繰りでやっていけるが、補助金がなくなった途端に、生糸を買う側からすれば生糸の原価が 10 倍以上になることを意味している。毎日生産できるような商材ならばまだしも、繭が出荷されてからきものができるまでに１年以上の年月がかかる世界にとって、数年間の移行期間中にコスト高の抜本改革をし、経済面での問題がクリアするのは至難の業。補助金が無くなったとたんに提携が継続できなくなる可能性は未だにどこの提携グループでも完全に解決しているとはいえない状況にある。

農家側は、養蚕だけでは食べていけない

点や手間をかけてもその見返りがないという点や、天候が相手の仕事だという点、良い繭といっても具体的に何をどうして欲しいのかわからないといった点を強調し、川下側は既述のような経営状況や、そもそも農家にはある「補償」が川下側にはなく、原材料の入荷がなくなればその年の商売の計画が根本的に狂うことを伝えた。お互いをあまりに知らないのだから、「とにかく言いたいことは言う」ことをルールとして、相互理解を図った。

お互いの実態を知らないが故の誤解が生む不満もあった。どうあれ、メンバーが不満を抱えた状態では提携グループとして成功するはずもない。グループ構築する際に、「言いたいことは言う」「（養蚕→製糸→きもの販売だけにこだわらず）メンバー全員の共存共栄を目指し、養蚕・きもの生産・販売が続けられるような仕組みを構築する」「より良い製品を生むためのアイディアがあれば何でもやってみる」というのがグループの基本ルールとなった。また、ルールを実現するためにも、「年に２回は意見交換会議を開催するので、最低でも必ずどちらか１回には参加する」というルールも定めてグループとして走り出した。

繭代は、選除繭歩合、解じょ率、生糸量歩合でランクを設定して決まる方式をとった。努力したかどうかが大きく関わる選除繭歩合が価格に最も大きく影響するという方式での価格設定をするという工夫を行っている。各地域の各蚕期の評価成績・繭代は年２回の会合の際にも発表され透明性を高めている。

蚕品種についての検討も行った。高級呉服に向く“細くて丈夫な糸”を求めてより良い品種の試験生産等も試みたが、結局飼うのが難しい品種で安定的な品質を得ることは難しいと判断し、普通繭の生産とすることで落ち着いた。

１．４　他地域への展開

岩手南部地域との取り組みで、良い繭を作りたいという志をもち、当グループの趣旨・ルールを理解していただける農家さんもいて、提携は可能であることが判明した。

国産繭によるきもの作りを一時的なイベントではなくビジネスとして継続させていくためには、岩手の南部地域だけでは繭の量が足りなかったため、同様に趣旨の賛同を得られそうな地域がないか、紹介をお願いした。また、同じ時期に、提携グループに参加しないと補助金が得られなくなったこともあり、各地域から当グループの提携に参加したいという話も数多く挙がってきた。協議の末、趣旨に賛同いただけない等の理由で最終的には提携できなかった地域も少なからずあったが、岩手県全体、宮城県仙北地域、栃木県南那須地域、福島県中通り・浜通り地区、山形県、青森県へと提携は広がっていった。

提携に向けて話し合いをしたものの、提携に至らなかったケースでは、農協側が「農家を守るために、農家のために一番良い事業者（１円でも多く繭代を支払う事業者）を選んでやりたい」と意気込むあまり、相手は一民間企業としてよりよい商取引をしようとしているだけで、農家さん保護のた

めの慈善事業をしている訳ではないといった点を理解していなかったり、繭を買ってくれる“お客様”は誰なのかを理解せず、通常のビジネスの取引上の常識を理解しようという意識に欠けていたり、というケースが多かった。これまでの農業 / 養蚕業がどのような形であったとしても、提携を組んで活動する以上は、相手の立場も理解しようと努め、“補助してもらって当然”ではなく、”お客様に買ってもらえるよりよい商品を協力して作っていく”という姿勢が必要である。養蚕をやったことがない奴には養蚕はわかるはずがないのだから、という態度で対話をしようとしなければ、相互理解も提携も当然ながら進んでいかない。

1.5　さまざまな取り組み～きもの以外の製品への展開

広域提携グループになり、ルールの遵守状況も地域により多少の温度差はでてきてしまうものの、これまで基本ルールを変更することなく活動を続けている。ルールの一つである、“よりよい繭を作るため、また、相互に発展していくために考えられることは何でもやってみる”も、もちろん実践されてきた。

例えば、気温の高い時期に繭を山形県の松岡株式会社まで運ぶ間に繭の質が劣化するのをクール便で輸送することにより防げないか、といった案が出たため早速そのシーズンに実践してみた。多くの地域で類似の意見がでたが、最初に実践した地域であまり効果がなかったということを伝えることができた。

養蚕は天候相手の仕事だから、工業製品のように都合よく上質な繭を作ることはできない、養蚕を理解していないからできるはずのない要求をすると言われたこともしばしばあった。しかし、その地域では不可能だということであっても、他の地域で毎年実現しているところを実際に見ているというケースもあった。「どうせ養蚕を知らないから」と言われ続けたが、各地を見ている我々の方が自分たちの地域のやりかたしか知らない生産者よりも知っている実情も希（まれ）にはあった。この状況の中、自分たちの繭が一番良いと信じてプライドをもって養蚕に取り組んでいた地域は、自分たちより良い繭を作る地域があると聞き、養蚕部会をあげて別の県の養蚕技術を視察しに行くといった交流が生まれたことは非常に良かったと思っている。

年に２回各地域での会合も毎年継続している。農家さんが出席しやすいよう各地域での会合をメインとしてきたが、グループとして地域間での交流は非常に重要であるため、ここ数年、グループ全体で集まる会議を年に２回の会議を１回に替えて実施してきた。広域に亘（わた）るグループの全体会となると出席者が減る上、毎年実施するには経済的・時間的負荷が大きくなるという問題もあるので、年に２回のうち少なくとも１回は地元での会議とし、全体会議も毎年開催することにはこだわらず、２年に１回程度、できる時に実施するというスタンス（構え）で実施してきた。全体会は好評で、地域間での交流が進むことによりグループの一体感も強まりつつある。現在は、養蚕部

会単位で、製糸会社、織物工場、（株）千總、別地域への訪問も積極的に行われている。

（株）千總のホームページには、全生産者宅に訪問して撮影したメンバーの顔写真がアップされている。農協で自分たちの繭から作られた呉服の販売会を開催したり、地域入り混ざった有志で忘年会を開催したり、繭以外の農産物をいただいたり、震災の際にはお見舞いにきものを提供したりと関係を深めてきた。

“共存共栄”の精神のもと、“悪い繭は買わない”というスタンスではなく、努力してもどうしても生じてしまう質の悪い繭はパウダーにして販売する事業も検討してきた。現在パッケージも完成し販売のための会社もたちあげ販売を開始している。もちろん、各農協でも桑茶の販売や桑・シルクパウダー入りの食品の生産など、繭販売によって得られる収入だけでなく、様々な製品を検討し、“養蚕業の発展”ではなく、メンバー全体の共存共栄ができる道を模索し続けている。

2　活動の課題と今後に向けて

上述の通り、10 年近くにわたる活動の末、提携は概ね順調に進んでいる。ただし、未だ地域 / 生産者による意識に温度差があったり、県の壁を大きく感じるところもあったりして、長年のやりかたから抜け出し意識を変えていくことの難しさを実感している。あと何年かの副収入として生活の足しになれば、養蚕が好きだから趣味でやっているだけ、高齢になり体力的に辛いのでやれるだけでよい、という考え方が悪い訳ではないが、本気で日本の養蚕を衰退させたくないのであれば、もう一踏ん張りメンバー全員が意識を高く持つことができればと感じている。皆の意識が完全に変わっていきさえすれば更なる強固な、かつ、有意義な提携になっていくと感じている。生産者個人としては非常に良い・高い評価の取れる繭を作っていても個人評価ではなく部会別の評価としているため、どうしても高い価格がでないといった問題も現状では存在するが、メンバー全員の意識が変われば解決できる問題であると感じている。

ただし、グループ全体での繭生産量の減少の問題は未だ解決していない。新規の養蚕参入に向けた各種補助金等の対策も講じられているが、今後も日本の養蚕が人材面・生産量面で安定的に継続していける見通しは立っていない。価格が上がれば新規参入が増えるのかもしれないが、補助金で価格を維持できない以上、慈善事業として競争原理の上で成り立つ価格以上の対価を出す企業はない。後進のためにも産業のためにも海外産繭・生糸製品との競争に勝てる繭 / 生糸 / 製品を作っていくしかない。株式会社シルク総合開発のような養蚕企業のような形態や、高齢の養蚕経験者のノウハウを上手く活用する集約化養蚕等のアイディアも生まれつつあるが、パウダー等の高付加価値が期待できる製品とも絡（から）めながら、地域創成の流れの中で上手に地域の雇用・産業として発展していくことが望まれる。

明治初期の信濃国と甲斐国蚕種紙を南フランスで発見！

―江戸末期に横浜からフランスへ旅立った蚕種たち―

アンティークストッキング収集研究家
鴇田　章

明治６年の信濃国蚕種紙「扶桑撰」が南フランス養蚕農家に現存

「あっ！これは上田の蚕種紙だ！」私は思わず声を出してしまった。平成23（2011）年の秋に、絹とストッキングの調査でイギリスとフランスを旅行した際、南フランスのセヴェンヌ渓谷博物館で、見学者がほとんど見過ごすような繭のコーナーに展示されていた１枚の蚕種紙に眼がとまり、黒々とした漢字で大きく「扶桑撰（ふそうせん）」と刷られ、裏には朱印で「信濃国上田蚕種原紙売捌（さばき）所」と押されていたのを、発見した瞬間であった。私が移住した「上田」の文字がハッキリと記されていた。更に、「蚕種世話役　長田利兵衛組合」、「蚕種製造人　信濃国水内郡（みのちぐん）吉田村　木内梅三郎」と墨印（すみひき）され、明治６（1873）年の「蚕種免許印紙」に割印と「ＹＯＫＯＨＡＭＡ 1873」の丸墨印が押されていた。

これは明治６（1873）年に横浜港から輸出された上田産蚕種紙「扶桑撰」が南フランスで孵化され、生糸となって使われた後に捨てられず、博物館に展示されていたのである。学芸員によると、平成９（1997）年にセヴェンヌ地方の養蚕農家だった建物を修理するため、屋根裏に上った大工が見つけ、博物館へ持ち込んだもので、日本人がこの蚕種紙について質問を求めたのは、私が初めてということであった。当然、日本への連絡もしていなかったので大発見となった（写真１、２、３、４、５）。

写真１：信濃国蚕種紙「扶桑撰」表
（フランス・セヴェンヌ渓谷博物館蔵）

写真２：信濃国蚕種紙「扶桑撰」裏

写真３：「信濃国上田蚕種原紙売捌所」朱印（拡大）

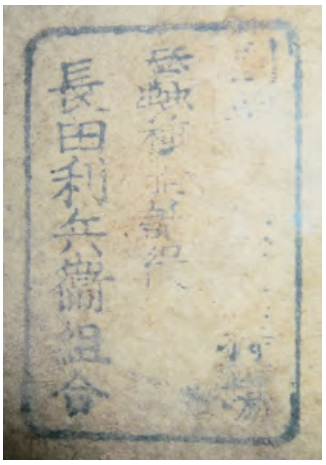


写真４：「蚕種製造世話役 長田利兵衛組合」墨印（拡大）

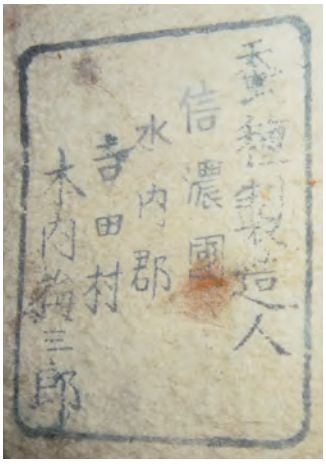


写真５：「蚕種製造人 木内梅三郎」墨印（拡大）

甲斐国蚕種紙「青龍」が宗教関係の書籍カバーとなって発見

その「扶桑撰」を発見した後、学芸員から「もう１枚あったかと思う。」と言われ、「ぜひ見たいので、見つかったら知らせて欲しい。」と依頼しておいたところ、帰国後、間もなくしてメールが入り写真が送付されて来た。

その蚕種紙は「本場　青龍（せいりゅう）」とあり、裏には判読不可能な朱印と墨印が押され、その下に「蚕種製造人 甲斐国 山梨郡 栗原筋千野村 村田八郎兵衛組 同郡赤尾村 保坂新造」と記されていた。しかし、「蚕種免許印紙」は剥（は）がれてしまったのか付いていなかった。

この「青龍」は南フランスで宗教関係の書籍カバーとなっていたものを持ち主が気付き、平成 20（2008）年に博物館へ持ち込んだものであった。日本の「手漉（てす）き蚕種紙」は丈夫で見栄えが良いことから、信州長瀬でも蚕種紙として使い終わった後、小学校の教科書などのカバーに使われていたと言われ、遠く離れたフランスでも同じ目的で使われていたのは、非常に興味深い一致である。

「扶桑撰」と「青龍」については元横浜シルク博物館部長の小泉勝夫氏に日数を掛けて調査して頂いたレポートと「蚕之種類号（大正６（1917）年）」と「日本蚕品種実用系譜（昭和 44（1979）年）」などを参考にするようアドバイスも頂き、また明治初期に外務省が編纂した幕末の外交史料集「続通信全覧」や学会などの発表資料を参考にして、いろいろなことが判明してきたのである（写真６、７、８、９、10）。

写真６：「本場 青龍」宗教関係の
書籍カバーとなっていた

写真７：「本場 青龍」表
（フランス・セヴェンヌ渓谷博物館所蔵）

写真８：「本場 青龍」裏

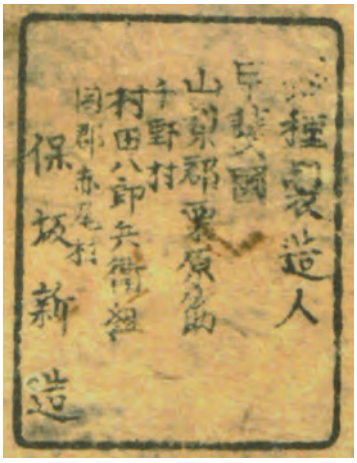


写真９：「蚕種世話役 村田八郎兵衛組
製造人 保坂新造」墨印（拡大）

写真 10：「村田永孚翁（名 八郎兵衛）」
（「村田永孚王碑の由来」より）

「青龍」の蚕種製造世話役「村田八郎兵衛氏」の子孫を尋ねる

岡谷蚕糸博物館での、私のコレクション展示を前に「青龍」について調べを進めるため、文献を探していると「絹の道―山梨県蚕糸業の歩み―昭和 51（1976）年」の存在を知った。そこで、発行元の山梨日日新聞社に問い合わせたところ、既に、絶版となり完売していたが、対応者は私の調査に興味を持ち、取材を受けたところ同紙に「青龍」の紹介記事が掲載され、それを見た蚕種製造世話役の村田八郎兵衛氏の４代

目子孫村田広紀氏が名乗り出て、140年の時を経た「青龍」のレプリカと対面、その複製を贈呈することが出来た。

それから、子孫の村田広紀氏と一緒に村田八郎兵衛氏についての経歴を尋ねることになった。八郎兵衛氏は当時「手作り地主」として、地元のために尽力する傍ら、弘化3（1846）年39歳の時に自宅で寺子屋を開校、その授業内容が広く充実していたので、門人は跡を絶たなかったと言われている。明治5（1872）年に65歳で若尾逸平氏と共に「蚕種製造大総代」となり、養蚕を広く奨励。翌6（1873）年「蚕種世話役」に任命、任期2年を蚕種業振興に注力、任期中にこの「青龍」が南フランスに渡ったものと考えられる。

また、明治6（1873）年千野小学校設立に尽力、翌7（1874）年「勝沼尋常小学校校長」に就任、同9（1876）年に「青梅街道開削世話係」に任命されるなど、殖産興業と教育振興、養蚕奨励、地域振興と多くの職務を兼務しながら、65歳を過ぎても地元のために任務をこなしていた。そのことは大正3（1914）年に永孚翁の門人、有志らによって、地元の向嶽寺に建てられた顕彰碑にも記されている。

その後「書画」に没頭して多くの制作活動を行い、「甲斐の永孚」と称されその名声を高め、永孚翁87歳の時には、明治天皇大婚25年の祝典で自筆書画3枚を奉呈、更なる書画を求める者が翁の門を訪ねたと言われている。そして、明治32（1899）年永孚翁は93歳で天寿を全うされた。

「扶桑撰」の蚕種世話役長田利兵衛氏、製造人木内梅三郎氏、「青龍」の製造人保坂新造氏の子孫の方々にも、その「蚕種紙」の複製品を是非、私からお渡し出来ればと考えている。

「扶桑撰」「青龍」がパストゥールの「微粒子病研究」のためフランスへ

江戸末期にヨーロッパでは蚕の微粒子病が蔓延し、「続通信全覧」には、欧米各国から日本の蚕種を求める様子が記録されている。

1864（元治元）年にナポレオン3世の要請で駐日フランス公使のレオン・ロッシュ氏をとおして幕府へ申し入れた時の担当は小栗上野介であった。当時幕府は蚕種の輸出を禁じていたが徳川家茂の計らいで、元治2（1865）年3月に1,500枚、慶応元（1865）年8月に15,000枚を寄贈、戦艦ル・デュプレクス号に積載し55日間で南フランスのマルセイユ港に無事到着したと記されている。この蚕種は最良の48種類の品種で用意され、その中に「扶桑撰」と「青龍」が含まれていた。（「蚕之種類号」「続通信全覧」より）

そして、その一部が微粒子病研究に取り組んでいたルイ・パスツゥールの元に届けられ、その原因解明にも寄与したのである。日本からの蚕種寄贈により、顕微鏡を使って微粒子病を持つ母蛾を除去し、健全なもののみ保存する予防策が考案され、フランスだけでなくイタリアの養蚕業復興にも大きく貢献をしたのである。

また、寄贈された蚕種紙を養蚕農家に配布するため、東洋語学校のロスニー教授にその分類リストをフランス語で作らせた時の記録に「扶桑撰（フソウ エラミ）」、「青龍（セイ リョウ）」とあることから、この呼び方が判明した。（「日本蚕糸業史・蚕種史」より）しかし、この呼称については、更に調査を進めたいと考えている。

明治 12（1879）年の横浜会所審査会の春蚕の中に「青龍」が出品されていたことが下記文献にあり、それは大正 5（1916）年度まで記載されていたが同 6（1917）年度には見当たらいことから大正初期まで使われていたことが分かった（農商務省農務局「明治 45 ～大正 6 年度蚕業取締成績」より）。このように小泉氏紹介の文献を細かに辿ることでこれらの蚕種が何時ごろまで使われたかが判明してくることが分かった。

日本の「手漉き蚕種紙」の盛衰を長瀬の「蚕卵台紙沿革史」から知る

日本の「手漉き和紙」については地域ごとに生産量が捉えられているが、「手漉き蚕種紙」だけをとらえ生産量の推移が分かる地域はほとんどなく、調べた限りでは、信州長瀬村の「蚕卵台紙沿革史」がその史料として存在している。それによると長瀬村では大正 8（1919）年に 600 万枚という驚異的生産量に達していたのである。それを蚕種紙の販売先から見ると、福島を除く蚕種製造の主要県のほとんどに当たる 23 都府県にわたっていたこと分かり、これだけの販売網が当時出来ていたことで、長瀬の蚕種紙が生産日本一であったと言える。

しかし、明治 7（1874）年には東京で洋紙製造が開始され、大正 12（1923）年には岐阜県下でも機械製紙による蚕種紙製造が始まり、この頃から大量生産が行われ、安いコストで台紙が一挙に出回ったため、手漉き製造家は大きな打撃となった。長瀬でも大正 8（1919）年をピークに手漉きは急激に落込んで行った。これが日本に於ける「手漉き蚕種紙」の盛衰と合致するのではないだろうか。

日本産の蚕種と生糸はフランス、アメリカで「ストッキング」になっていた

明治初期の日本産の蚕種と生糸は主にヨーロッパへ輸出されていたが、明治 23（1890）年以降は生糸の 60％以上がアメリカ向けに移行し、明治初期にフランスへ輸出された蚕種や生糸は、特に南フランスに於いてはほとんどが「絹ストッキング」になっていた。また、大正期に入ると 80 ～ 90％がアメリカ向けに移行、その 90％以上はフルファッション編機による「絹ストッキング」となり、アメリカ女性を虜にしていたのであった。

一般に、ヨーロッパやアメリカへ輸出された生糸は「絹織物」となり、衣服などになったと言われているが、前述のように、かなりの生糸は編物の「ストッキング」にもなっていたのである。

海外から、細く丈夫で美しい糸が「ス

トッキング」用として要望され、明治40（1907）年には御法川直三郎氏の発明した「御法川式多条繰糸機」を使った生糸がアメリカの望む品質に合っていたことから、「ミノリカワローシルク」と呼ばれ、一世を風靡するブランドとなった。アメリカからの要望に応え、開発と研究を重ね、常に品質向上を考えていた日本の生糸は海外で多くの「絹ストッキング」となり、外国女性の「お洒落アイテム」となっていたことはあまり知られていない（写真11）。

写真11：御法川式多条繰糸機
（写真提供：シルクファクトおかや）

【追記】

この甲斐国蚕種紙「青龍」の発見と展示がキッカケとなり、「甲州シルクの歴史・産業プロジェクト（青龍会）」が発足いたしました。

■鴇田章（ときた・あきら）のプロフィール

東京・下町の生まれ。家具織人の棟梁であった父の姿を見て育つ。昭和38（1963）年厚木ナイロン（現アツギ）へ入社。創業者である社長に直接指導を受けた。昭和50（1975）年、自ら考案した「12球団ソックス」が100万足の大ヒット商品となり社長賞を受ける。昭和57（1982）年、靴下の企画卸会社ブロンドールを創業。当時、女子高生を一世風靡した「ルーズソックス」を開発、命名し、平成8（1996）年新語流行語語大賞受賞。平成12（2000）年代には、スパッツを「レギンス」に替え、指の分かれたストッキングを「指セパ」として仕掛け、ブームにした。現在はライフワークとして、絹とストッキングの収集と歴史研究、展示、講演、執筆活動に注いでいる。

シルク遺産を訪ねて㉔

片倉館・・・実業家による最初期の公共福利厚生施設

東京産業考古学会
副会長　平井　東幸

長野県の諏訪湖のほとりは、周知のように片倉製糸（現片倉工業株式会社）の発祥地である。東岸の上諏訪温泉には、湖畔に臨んで、重要文化財の片倉館を中心に旧懐古館（現在の諏訪市美術館）、旧片倉組別邸（現在のかたくら諏訪湖ホテル記念館）等の片倉製糸ゆかりの建築物が６棟、すなわち、片倉館の２棟（会館棟、浴場棟）、旧懐古館、その隣接の旧資料館、ホテルの迎賓館と菊の間、以上の６棟がある。今回はそのうち、片倉館を紹介する。

建設の経緯

同館は、正面向かって右の浴場棟と左の会館棟から構成され（写真１）、昭和３（1928）年に福利厚生施設として竣工した。建物総面積は750坪（2,479㎡）の洋風建築で、現役の日帰り温泉施設である。

建設の経緯を振り返ると、昭和の初めに片倉家２代の兼太郎が、大正末期に欧米を視察して、とくに当時ドイツ領（現在のチェコ）のカールスバートのクアハウス（温泉を利用した療養施設）に感銘を受けて、わが国でもこのような地域住民のための厚生施設が必要とし、これを企業の社会的責任と考えて建設に踏み切ったもの。設計は当時著名な建築家の森山松之助氏に依頼、施工は片倉組の直営であった。所要資金は約60万円。

以来、上諏訪温泉の中核施設として今日に至っている。大正末期から住友等、慈善事業に取組む企業が現れたが、片倉も昭和初期に地域住民の憩いと文化の場を提供するという、まことに志の高い経営判断であった。都会のお金持ちは、箱根や熱海・伊豆等の保養地に行くこともできたが、諏訪の住民は行くのは難しい。従って、当地に温泉施設をつくり住民に開放・楽しんでもらおうと考えで建設したものであった。

重要文化財に指定

片倉館は、上記の通り、会館棟と浴場棟で構成されているが、これに加えて両棟をつなぐ渡廊下が国の重要文化財に平成23（2011）年に指定された。このほか、附（つけたり）として、噴水池、敷地周辺の石塁、それに図面等425点が指定されている。

その理由としては次の２点が指摘されている。

① 独創的な意匠をもち、建物内外の装飾の密度も高く、近代の我が国建築家・森山松之助による洋風建築の一つとして重

要であること。

② 実業家の手になる最初期の公共福利厚生施設として高い歴史的価値を有していること。

つまり、片倉館は建築的にも歴史的にも重要であることが高い評価を受けている。その指定に際しては、茅野市出身の建築家・建築史家として著名な藤森照信氏（東大名誉教授）の指導を仰いだ由。

なお、経済産業省の近代化産業遺産にも平成 19（2007）年に認定されている。

写真１　片倉館外観、会館棟（左）と浴場棟（右）

華麗な大浴室の浴場棟

先ず、浴場棟についてみると（写真２）、鉄筋コンクリート造り、２階建て（一部３階）、地下１階。急勾配のスレートの切妻屋根と八角の尖塔を含めて大小３本の搭屋、それにこの時期に流行したスクラッチタイル（引っ掻き模様を刻んだ湿式成形の無釉煉瓦）張りの外壁が極めて印象的である。詳しく観察すると、屋根にはシェブロン（矢印）模様が施されている。建設当時のままなので、よく観ないとわからないが、これはオーストリア・ウイーンのシュテファン大聖堂やクロアチア・ザグレブの聖マルコ教会の屋根を彷彿とさせるではないか。この屋根には会館と合わせて計 14 個のドーマ（屋根）窓（写真３）が設置されており、これらが夜間のライトアップ時には、建物全体を引き立たせる巧みな装置になっている。山崎館長の説明によると、森山松之助はヨーロッパのゴシックを初め、様々な様式を巧みに活用して装飾性の高い設計をしている由。

内部をみると、ステンドグラスや彫像を配した大浴場（通称：千人風呂）・・・その浴槽は大理石造りで、男女それぞれ同じデザインと広さであるが、昭和初期に男女同型とは稀有なことではないだろうか？深さは 1.1m とプールのように深いが、これはチェコのクアハウスに範をとったようである（写真４）。このほか、例えば、階段室、２階の休憩室の列柱、諏訪湖の展望が素晴らしい浴場バルコニー等、見どころは多い。

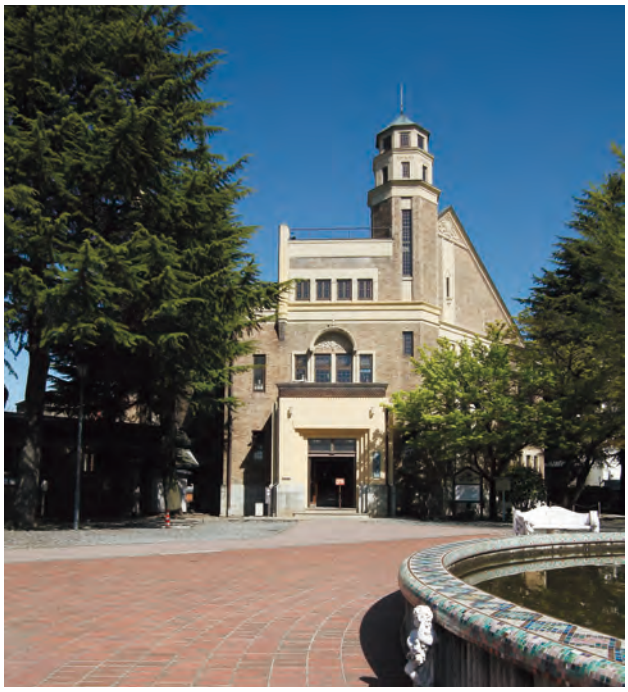


写真２　浴場棟外観

写真３　片倉館のドーマ窓

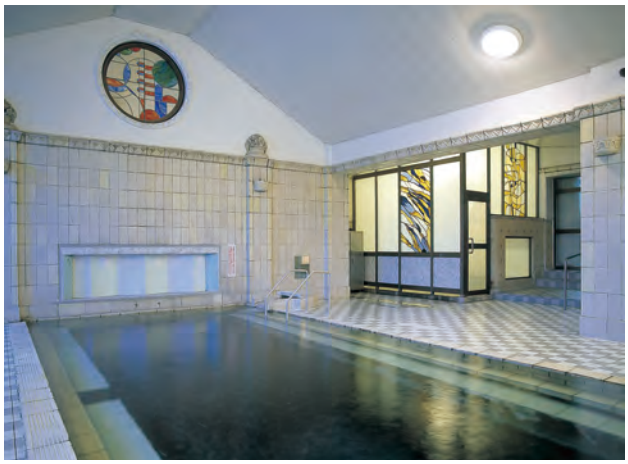


写真４　千人風呂内部

204 畳の大広間をもつ会館棟

次に、会館棟をみると（写真５）、木造２階建て、渡廊下で浴場棟に接続、正面入り口には、２体の狛犬（こまいぬ）の彫像が左右に控えている。これは高村光太郎の作品で、当時片倉同族が靖国神社に大鳥居とともに奉納し同鳥居脇に設置された狛犬の原型であり貴重である。１階には、大小の和室等が備えられており、２階には 204 畳の大広間（写真６）がある。２階大広間の舞台寄りの天井は「折上格天井（おりあげごうてんじょう）」であり、舞台に立つ場合に天井の圧迫感を無くしている。

このほかの見どころとしては、当時のままのシャンデリア等の照明器具、木製の上下式の窓、暖房用ラジエーター、時計、金庫等・・・開館当初のままの昭和初期のレトロな雰囲気を今も醸（かも）している。さらに、外観は浴場棟と調和した装飾性の豊かな洋館であるが、内部は伝統的和風である。それでありながら、外部からは内部が和風であることを全く感じさせない巧みな工夫がなされており、この点も見逃せない。

なお、浴場の入館者はピークは年間 20 万人であったが、事業環境の変化もあって減少傾向の由だが、山崎現館長の新機軸で、イベント開催、会館棟の公開とガイドツアー実施、物販の強化等によって、重文の保存活用と地域の振興とを図られていることに敬意を表したい。

写真５　会館棟外観

また、同館では、重文指定を記念に小冊子『片倉館　その歴史を辿(たど)る』（平成 23（2011）年 11 月）を編集発行している。文化財保護の観点からも貴重な文献資料である。

最後に、この取材に快く応じて下さった片倉館の片倉康行代表理事と、現地でご案内と写真を含めて各種資料の提供を頂いた山崎茂館長に感謝致します。

（写真はいずれも片倉館提供）

写真６　会館棟の大広間

■名　称：片倉館
■所在地：〒 392-0027 長野県諏訪市湖岸通り 4-1-9
■アクセス：ＪＲ中央本線上諏訪駅下車、徒歩 8 分
中央自動車道・諏訪 IC より 7 ㎞
■営業時間：10 時～ 21 時
■休館日：第 2，４火曜日
■利用料金：大人 650 円、小人 450 円
■会館棟の案内ツアー：
館営業日　13:30 ～、15:30 ～の２回
見学時間：45 分程度
見学料：大人 500 円、小人 300 円
事前に電話で予約が必要。
■電話：0266-52-0604

繭の大きさと繭糸の長さ　ー外山亀太郎先生ー

東京農工大学農学部蚕学研究室
准教授　横山　岳

繭糸の長さ

私事ながら、先日人間ドックでいろいろ調べもらったところ、身長160cmで体重が60kgを越えており、少々太り気味なので運動しなさいとコメントをいただいた。確かに二十代の頃から身長が変わらないのに10kg以上重くなっている。筋肉が落ちて脂肪がついている筈だろうからどれほど脂肪が増えているのか考えると恐ろしい。現在の成人男性の身長は総務省の統計調査によると約170cmだそうだ。身長160cmの私は成人男性としてはかなり低い方で、子供の頃からいつもクラスで1～2番位の低さだった。私の両親も160cm以下、親戚を見渡しても170cmを越えるのは筆者の弟一人だから、遺伝的に背の低い家系なのだろう。日本人の男性の平均身長は100年位前は約160cm、50年前は約165cmだったので半世紀で5cmずつ高くなっているようだ。高くなった原因は遺伝的なものではなく、栄養状態や生活環境の変化などの環境的なものだろう。このままの生活が続くと日本人もあと100年経ったら男性の平均身長は180cmになるのだろうか？

蚕では繭糸の長さがこの100年の間に極端に長くなっている。現在の蚕の繭の糸長は約1300～1500mと1kmを越えているが、これは品種や飼育技術の改良によって長い繭糸を吐くことが可能になってきたからだ。もともと野生にいた絹糸昆虫を1万～5千年前の中国人が繭糸を得るために飼い慣らしてきたのが蚕であり、そのまま野外にいたのがクワコ（野蚕）である。クワコの繭の糸長を農業生物資源研究所の中島健一博士に調べていただいたところ88mしかなかった。繭が小さくて糸を繰るのは大変だったそうである。古代中国人が蚕を飼い始めた頃も繭や糸長はだいたい同じ位だったと思われる。クワコの繭糸は今の蚕と比べると大変短いが、麻や羊毛などの天然繊維の中では抜群に長い。当時は細く長い繭糸は大変貴重であり、家畜化が進んで「家蚕」になり、育種が続いたのであろう。

日本は弥生時代から養蚕していたようだが、品種については江戸時代後期まで記述がなく、どのような蚕であったのか残念ながら詳しいことが分からない。しかし、江戸時代に様々な蚕品種が育成され、残された繭の大きさや重さは18世紀中頃から徐々に大きくなっていた。

江戸時代は外国の蚕品種が導入されていないので、この頃の育種は育て易く、大きな繭を作る蚕同士を交配して系統を作っていたと思われる。江戸時代に作られた蚕品種のいくつかは明治後半まで使われていく。代表的な品種は小石丸（こいしまる）、青熟（あおじゅく）、又昔（またむかし）などだが、だいたい糸長は 400 ～ 500 m位だったようである。養蚕が始まってから数千年位かけて糸長は 4 ～ 5 倍位になった。江戸時代は蚕種業者が行商して各地に自分の製造した卵を地域限定的に売っていたのが、明治期には蚕品種の情報が広く知られるようになり、良い品種は全国的に飼育されるようになったようである。また、明治時代は外国の品種が導入され、中国やヨーロッパの蚕品種は日本の品種より大きいものが多かったが、日本の養蚕農家でも普通に飼育されていた。

蚕の品種育成の大革命

大正時代に蚕の品種育成の大革命が起きた。ヨーロッパ、中国、日本の蚕品種間で交雑するとその子世代の蚕は親世代に比べて、病気に強く、繭が大きく、発育が揃うことが外山亀太郎（とやまかめたろう）博士によって見いだされ、明治 39 年（1906）に実用化が提唱された。そして、片倉製糸紡績（現片倉工業株式会社）の今井五介（いまいごすけ）は交雑種の卵を無料で配布して一代交雑種（いちだいこうざつしゅ）の普及を図ったそうである。当時の蚕種業者の農家向けチラシをみると交雑種の繭はそれまでの品種に比べ 3 割も高く売れることや「未曾有（みぞう）の大豊作」「非常の好成績」を示すことを農家に宣伝している。農家としては飼い易く、収量が多く、しかも高く売れるとなると、一旦交雑種を飼育した農家はもとの地域品種をもう一度飼おうとは思わなかっただろう。製糸業社側としては大きさ、形の揃った繭が手に入るので両者ウィンウィンだったのであろう。そして一気に一代交雑種の普及が進み、大正 3 年には農家の蚕はすべて一代交雑種となった。一代交雑種の発祥の地である松本には「蚕業革新発祥記念」の大きな石碑が建っている（図 1）。

図 1 「蚕業革新発祥記念」の石碑
長野県松本市県 1 丁目 蚕糸記念公園内

雑種強勢

一代交雑種が親より優れた形質を示すことを「雑種強勢（ざっしゅきょうせい）」という。蚕は雑種強勢が強く現れる生物で、その特徴をあげると

1. 産卵数が原種に比べて増加する。
2. 孵化、幼虫の発育がよく揃う。
3. 著しく強健になる。耐病性で飼育しやすく、不良環境に耐える。
4. 繭重、繭層重、収繭量が多くなる。
5. 繭糸繊度が太く (吐糸口が大きい)、繭糸長も長くなる。
6. 同功繭歩合が多くなる（2 頭で 1 つの繭を作るもので、糸がこんがらがって

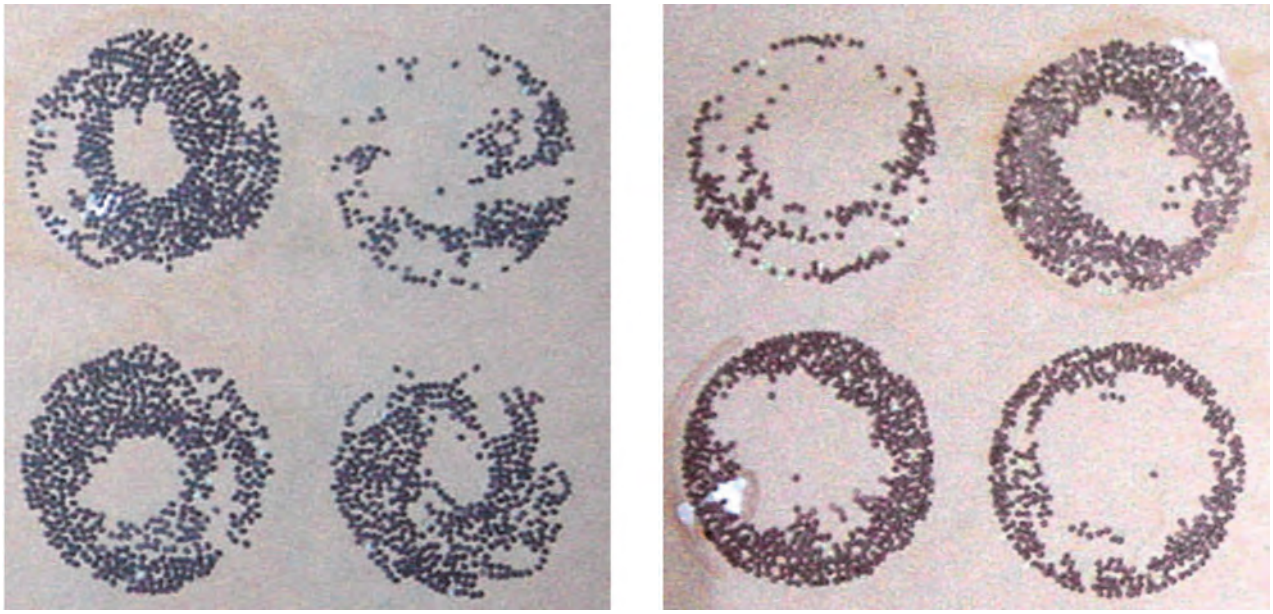


図2　親世代の日 106 号（左）と大造（右）の卵

製糸に不向き)。

繊度が太くなること、同功繭が増えること以外は原種に比べて良いことずくめである。1. の産卵数についてだが、例えば日 106 号という日本種系統と大造という中国種系統の産下した卵が図 2 である。

黒い点が 1 個の卵で、雌蛾に丸い枠をかけて産卵させているので 1 蛾が丸く産卵している。それぞれ 4 蛾ずつ産卵させているが、蛾により結構産卵数のばらつきがある。その日 106 号と大造の子（交雑種）の産んだ卵が図 3 であるが、どちらの親よりも産卵数が多く、また 4 蛾の産卵数も比較的揃っている。

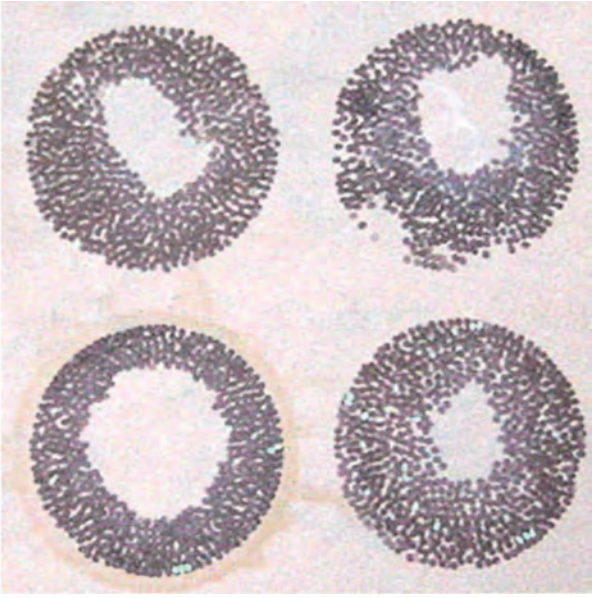


図3　日 106 号と大造の交雑種の卵

2. 孵化、幼虫の発育がよく揃うことと 3. 著しく強健になることについて。耐病性で飼育しやすく、不良環境に耐えることは文章と図では伝え難いが、蚕を飼う時に発育が揃うことは大変飼育し易くなる。研究室では多くの突然変異系統を飼育しており、学生は最初珍しさから突然変異系統を飼ってみるが、発育がばらつき、すぐ発育不良を起こして飼い難くうんざりしている。しかし、遺伝解析のため突然変異系統と正常な系統の交雑種を飼育すると歴然と飼い易くなり、学生は雑種強勢の有難味が身に染みているようである。また、初めて交雑種を飼育した養蚕農家も元気で大きくなる蚕にびっくりしたことであろう。

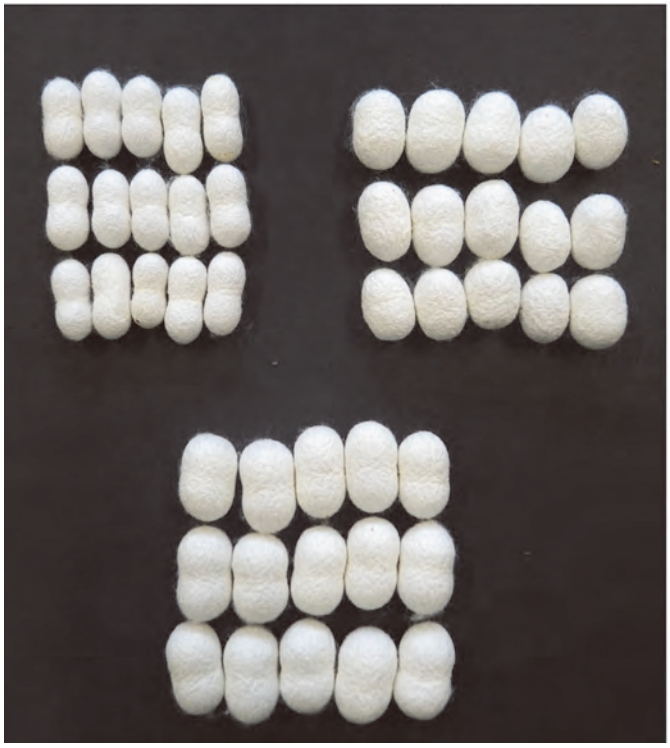


図4．上段：親世代 （左）日 106 号の繭、（右）支 108 号の繭
下段：その交雑種（子）の繭

4. 繭重、繭層重、収繭量が多くなることを図 4 に示した。日 106 号と支 108 号の繭（図 4 上段）の交雑種が図 4 の下段である。

親世代の繭に比べて、その子世代（交雑種）は繭が大きくなっている。また、形、大きさも揃っている。現在、蚕種業者が親世代を飼育し、その卵（子世代）を養蚕農家が飼育している。

図 5 は繭 1 粒の糸長の変遷を示した。どの時代も繭糸長の異なる多くの蚕品種が使われているため大まかな長さであり、記録の無い明治初期以前は推定である。大正時代以降、交雑種を利用するようになり、農家で飼育している蚕はそれまでと比べて歴然と大きくなっていった。繭糸長は昭和初期には 1000 mを越える品種が現れ、昭和後期には 1300 ～ 1500 mとなった。クワコの 100 m弱、明治時代の 500 m前後に比べて長く、いかに交雑種の利用が画期的だったのかお分かりいただけるだろう。

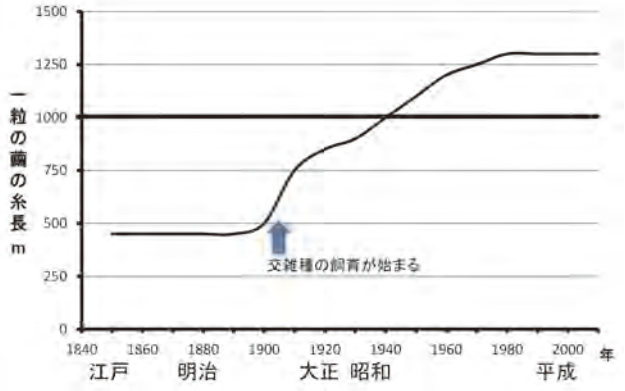


図 5　繭糸長の変遷

広がった雑種強勢の利用

ところで、養蚕農家が交雑種の子世代の蚕から採卵して、次の代以降を飼育したらどうなるかというと、段々雑種強勢の効果

図６　上段：交雑種１代目（子供）
中段：交雑種２代目（孫）
下段：交雑種３代目（ひ孫）

図７稲の花

は薄れていき、蚕の発育は揃わず、繭も小ぶりになっていく。図６は子世代、孫世代、ひ孫世代の繭である。子世代は雑種強勢が現れてよく形や大きさが揃っているが、孫世代、ひ孫世代では揃わなくなっている。農家は自分で採卵するより、蚕種業者から毎回卵を購入した方が効率的である。

これらの繭を実験卓に並べていたところ、これを見た稲の育種をしている同僚が「蚕の雑種強勢は凄い！」とびっくりしていた。稲は自家受粉なので異なった稲系統間で交雑種を作るのが難しい。図７は稲の花である。白いものが花粉の出るオシベで、メシベはエイ（穎：緑の粒）の中にある。オシベがエイから出る前にエイの中で花粉がメシベに付き、受粉してしまうそうである。つまり、稲は異なった系統間で受粉させる場合、エイの中のオシベを予め取り除いてやる必要があり、大変手間がかかるそうである。

ちなみに桑は稲とは逆に他殖性が強く、自分の雄花の花粉では受精しないようである。桑の花を図８に示した。左図は雌花で

図８　桑の花　左：雌花（白いものがメシベ）、右：雄花

白い突起がメシベ、右図は雄花である。自家受粉しないのでその桑樹と同じ形質を持った種を作り難いが、桑は樹木なので枝を接木して増やすことができる。蚕と違って毎年採卵しないで済むこと、変わった枝（変異体）を見つけたらそれを増やすことができる樹木はすこし羨ましい。しかし、稲も桑も花は大変地味である。

交雑種が雑種強勢で栽培しやすく、大きくなることを利用して、現在、トウモロコシ、トマト、玉ねぎ、白菜、キュウリ、ホウレンソウなどは交雑種が栽培されている。種苗業者は多くの系統を栽培し、多くの系統の中から良い組み合わせのものを選び出し、採種したものを農家に販売している。また、蚕の交雑種と同じように交雑種の農作物を農家で採種していくと段々最初の世代よりも小さく、栽培し難くなっていく。

農作物の多くに交雑種が利用され、20世紀の食料増産に寄与している。その先駆けが蚕であり、外山亀太郎先生の先見の明、恐るべし。ノーベル賞級の業績であるが、残念ながらノーベル賞に農学賞はない。

■横山 岳（ヨコヤマ・タケシ）のプロフィール
東京農工大学農学部
生物生産学科蚕学研究室
〒183-8509：東京都府中市幸町 3-5-8
TEL：042-367-5681
E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp
HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

繭糸の低分子タンパク質

一般財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学研究所
主任研究員　栗岡　聡

カイコの繭糸はフィブロインとセリシンと呼ばれる分子の大きい２種類の絹タンパク質で構成されている。繭糸の成分はこれらの絹タンパク質だけで構成されていると考えられてきたが、それ以外に、繭糸にはフィブロインやセリシンに比べると小さいタンパク質が微量ながらも混在している。よく誤解されがちであるが、これらはセリシンに含まれているのではなく、正確にはセリシン層に含まれている。なぜそのような微量タンパク質が繭糸に含まれているのかは未だによくわかっていない（写真１）。

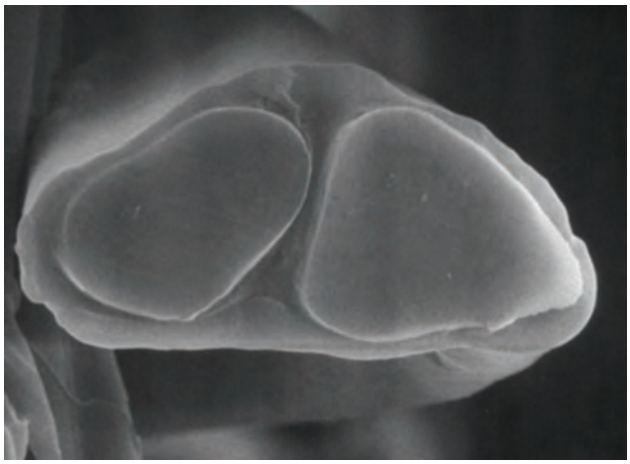


写真１　繭糸の断面図

形態的には中心部のフィブロインと周囲を囲むセリシンの２種類のタンパク質がよく知られているが、実はその他の成分がセリシン層に含まれている。

絹タンパク質に関わる研究の歴史は長く、研究の蓄積も多岐にわたり膨大なものである。生糸の品質向上が主な研究目的であったため、もっぱら研究対象はフィブロインとセリシンに集中していた。そのため、繭糸の微量タンパク質成分への関心は低く、分析技術が現在のように発展していなかったこともあって、近年まで微量タンパク質の存在に気がつかなかった。繭のトリプシンインヒビターは、熱や酸に対する抵抗性がとても強いにも拘（かか）わらず、アルカリ条件にはめっぽう弱い性質をもつ。繭のトリプシンインヒビターの存在が長い間知られなかったのは、アルカリ精練では分解されてしまっていたことも一因であろう。

ではじめに、繭糸から見つかったトリプシンインヒビターについて簡単に紹介する。トリプシンインヒビターとは動植物に広く存在するタンパク質で、酵素の一種であるトリプシンの作用を妨げる働きがある。トリプシンはタンパク質を分解する消化酵素で膵液に含まれている。トリプシンインヒビターの生理機能は幾つか知られているが、一例を挙げると、哺乳類では消化酵素のトリプシンが膵臓組織内で自己の組織を分解しないように重要な役割を果たしている。

実用面において、哺乳類のトリプシンイ

ンヒビターは急性膵炎治療用の医薬や研究用のタンパク質分解抑制試薬として利用されている。これらの用途向けには、主にウシの膵臓が使われているが、動物性の原料を利用する場合のBSE感染などの危険性を考えると、繭糸由来のトリプシンインヒビターはウシ由来のトリプシンインヒビターよりも安全面において優位な原料といえる。

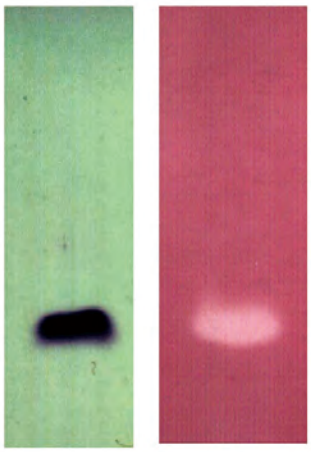
繭糸にトリプシンインヒビターが含まれていることは、繭の水溶性タンパク質を分析している過程で偶然に発見された。タンパク質の変性剤を使ってセリシンを膨潤させ、水溶性タンパク質の抽出実験を行ったところ、いままでに見たことのない複数のタンパク質が抽出液に存在していた。いずれも分子量は1万以下であり、数十万の分子量をもつ大きなフィブロインやセリシンに比べて小さなタンパク質である。当初はセリシンの分解物程度にしか考えていなかったが、念のためにこれらの成分について詳しく分析を進めていくと、分子量約6000の成分は哺乳類のトリプシンインヒビターと良く似ていることが分かった。その後、絹糸腺内容物からも繭糸と同じトリプシンインヒビターが見つかった。さらに、トリプシンインヒビターは絹糸腺細胞において合成されていることも確認され、繭糸でみつかったトリプシンインヒビターは絹糸腺から移動してきたことが明らかになった（写真2、3）。

ところで、カイコには哺乳類のような膵臓はないので、トリプシンインヒビターは

写真2　分子量1万以下の繭糸タンパク質

繭糸の水溶性タンパク質を電気泳動法で分析。青いバンドはタンパク質の存在を示す。

写真3　トリプシンインヒビター活性の検出



精製した分子量6000のタンパク質（左）は、特殊な染色法によりトリプシンの作用を妨げていることがわかる（右：白いバンド）

別の機能を担っていると考えられる。特に、トリプシンインヒビターは、絹タンパク質の生合成と貯蔵の場である絹糸腺にも存在

することから、何らかの異変で絹タンパク質が分解されないように備えられているのではないかと推測されている。

繭糸のトリプシンインヒビターは天蚕などカイコ以外の野蚕の繭からも見つかっている。過酷な自然環境で生活する野蚕繭は、紫外線吸収能や抗菌性に優れた成分を備えていたり、繭の形態や色を周りの環境に合わせて擬態したりするなど、人間の管理下で飼育されるカイコに比べると繭の防衛機能に格段の差がある。防衛機能が退化したと言っても過言ではないカイコの繭を改めて防御機能という視点から詳細に調べていくと、繭の外層や繭を包んでいる毛羽に多量のトリプシンインヒビターが含まれていることがわかった。外敵や微生物との接触拠点となる”最前線”ともいえる外層や毛羽に機能性成分を備えることは合目的的であり、トリプシンインヒビターも防御に関わる一員として働いているのかもしれない。

次に、絹タンパク質の分解防止や繭の防衛機能の強化など繭糸トリプシンインヒビターの機能について簡単に紹介した。その後の研究で、家蚕の品種の違いにより繭糸トリプシンインヒビターの物理化学的な特性にはバリエーションがあることもわかってきた（写真４）。

最近、繭の品種特性の違いを活かした絹の精練加工方法の確立が求め始められているが、品種による微量成分の違いを念頭に置き、繭成分を総合的に見直してみることも重要である。また、繭にフラボノイドや尿酸などの機能性成分を多く含む品種もあることから、微量成分を丁寧に分析していくと、生活資材に活用できるような付加価値の高い未知成分が見つかる可能性もあり、今後の研究の進展に期待したい。

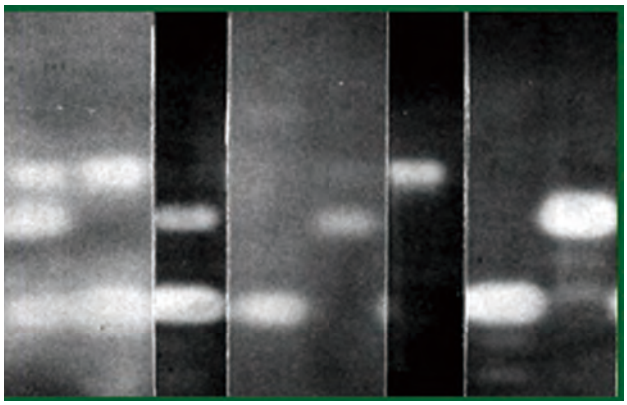


写真４　品種により異なるトリプシンインヒビターの種類

（引用文献）

栗岡　聡，平野　久：家蚕繭層低分子量タンパク質のトリシン SDS 電気泳動法による分析．日蚕雑，65, 125-127.1996

KURIOKA, A., YAMAZAKI, M. and HIRANO, H.: Primary structure and possible functions of a trypsin inhibitor of Bombyx mori. Eur. J. Biochem., 259, 120-126. 1999

KURIOKA, A., YAMAZAKI, M. and HIRANO, H.: Trypsin inhibitor polymorphism in the cocoon of the silkworm, Bombyx mori. J.Seri. Sci. Jpn., 68, 397-403. 1999

KURIOKA, A., YAMAZAKI, M. and HIRANO, H.: Characterization of serine protease inhibitors from wild cocoons of Antheraea yamamai and Bombyx mandarina in comparison with those from Bombyx mori. J.Seri. Sci. Jpn., 69, 21-30. 2000

KURIOKA, A., YAMAZAKI, M. and HIRANO, H.: Distribution of trypsin inhibitor in the cocoon floss of the silkworm, Bombyx mori. J.Seri. Sci. Jpn., 69, 63-66. 2000

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	（染織作家） 山村多榮子氏の蚕品種ぐんま200を使用したストール、先染反物、先染服地、先染帯などを展示。同氏は、国際貝紫研究会、野蚕学会、日本工芸会、八王子ファッション協議会の会員として活動している。	＜会期＞ 平成27年11月9日（月） ～11月27日（金） ＜開催時間＞ 10：00～18：00	＜主催＞ ジャパンシルクセンター ＜会場＞ ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4蚕糸会館１階 TEL：03-3215-1212 FAX：03-3214-1700
	（田中種 ㈱） （小紋、加賀友禅、紬着尺、ニット） 出展者は、大阪の和装の創作問屋。群馬県産の繭を碓氷製糸で繰糸した生糸を使用し、丹後、長浜で紋意匠縮緬、一越縮緬を製織し、極型小紋、加賀友禅などの技法で染色した着尺、帯。「綾の手紬」の絣の技法を用いた着尺。おやすみ靴下をはじめとした健康志向型ニット製品の展示。	＜会期＞ 平成27年12月14日（月） ～12月25日（金） ＜開催時間＞ 10：00～18：00	
ジャパンシルクセンター特別展示	帛撰　西陣織展示会	11月4日（水） ～6日（金）	
	さくら工房　絹服展示会	11月9日（月） ～20日（金）	
第29回絹まつり 冬のセール	夏、冬にシルク製品の展示、モニター販売する冬のイベントです。コンセプトは、「デイリーシルク（絹を日常に！）」で、冬用のブラウス、肌着、スカーフ、ストール、ソックス、石鹸などを提供する。	＜日時＞ 平成27年12月7日（月） ～10日（木） 10：00～18：30、最終日は17：00まで	

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
第34回企画展「皇居のご養蚕と養蚕業の歴史・未来」	皇居のご養蚕のご様子や養蚕業の歴史を紹介するとともに最新の研究である光る繭やクモの糸の遺伝子を持つ蚕の糸等について展示し、未来に向かった新たな養蚕業の可能性について紹介します。 【主な内容】 １皇居のご養蚕の歴史 ２皇后さまのご養蚕 ３御養蚕所生産の繭標本と蚕品種 ４小石丸での正倉院裂の復元と春日権現験記絵の修理 ５日本の養蚕業の歴史 ６群馬県オリジナル蚕品種と群馬県養蚕農家の生産した繭 ７養蚕業の未来（蛍光絹糸、クモ糸シルク等）	＜期間＞ 平成27年10月24日（土）～12月14日（月）	＜主催＞ 群馬県立日本絹の里 ＜お問合せ＞ 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL：027-360-6300 休館日：毎週火曜日（11月3日（火・祝）は開館、11月4日（水）は休館）
純国産宝絹展	蚕糸・絹業に関わる関係者は、蚕の育成から純国産絹製品に至るまで一貫した品質の維持確保に努め、消費者の皆様に支持される「良いものづくり」に取り組んでいます。本展では、その活動の一端をご紹介します。	＜開催日時＞ 平成27年11月20日（金）10：00～18：30、21日（土）10：00～17：30 ＜会場＞ iTSCOM STUDIO&HALL二子玉川ライズ 東急田園都市線・大井町線二子玉川駅下車	＜主催＞ 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 電話：03-5642-6527
TOKITA COLLECTION展	アンティークストッキング収集研究家鴇田章（ときた・あきら）氏が30年間かけて収集したTOKITA COLLECTIONの中からテーマ別展示とその歴史解説の講演を毎回行い、平成26年12月より約1年をかけてリレー展示。 第6回： 「国産フルファッション・シルクストッキングの誕生～日本最初の5メーカー全作品と海外作品競演～」	＜開催日＞ 第6回： 平成27年12月1日（火）～平成28年1月31日（金） 作品解説：12月12日（土）・1月9日（土）午後2時より	＜主催＞ シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター2階 TEL：045-641-0841 ＜お問合せ＞ 同上 ＜開館期間＞ 午前9時30分～午後5時まで（入館は4時30分まで） ＜休館日＞ 月曜日（祝日の場合は翌日）

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
第54回農林水産祭 実りのフェスティバル	農林水産業と食に対する国民一般の理解の増進と農林水産物の消費拡大等に資するため、都道府県、農林水産団体の協力を得て、開催します。 ＜出典内容＞ ・天皇杯等の三賞受賞者をパネルで紹介展示 ・都道府県の特長ある技術や農林水産物についての実物等の紹介展示 ・農林水産関係団体による展示、即売、試飲・試食　など	＜開催日時＞ 平成27年11月13日（金）10：00〜17：00、14日（土）10：00〜16：00 ＜会場＞ サンシャインシティワールドインポートマートビル4階展示ホールA （東京都豊島区東池袋）	＜主催＞ 農林水産省、公益財団法人日本農林漁業振興会 ＜問合せ先＞ 電話：03-6441-0791
第40回特別展 「第８回現代手織物クラフト公募展」	全国で独自の創作活動をしている織物のプロ、および将来プロを目指す方たちが創作した、独創的で優れた織物作品を公募展覧し、広く織物愛好家に向けて紹介するとともに、自立の道を拓く支援の場となることを目的とします。	＜開催日時＞ 平成27年10月15日（木）〜11月23日（月・祝）	＜主催＞ 「現代手織物クラフト公募展」実行委員会 ＜場所＞ 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321長野県駒ヶ根市東伊那482 電話：0265-82-8381
第3回小山きものの日	本場結城紬ユネスコ無形文化遺産登録5周年記念事業をして、市民のきものに対する意識を醸成するとともにきもの着用を推進し、本場結城紬の需要の掘り起こしを図ることを目的としたイベント。	＜開催日時＞ 平成27年11月14日（土）10：00〜16：00 ＜場所＞ 小山御殿広場、まちの駅思季彩館「開運館」	＜お問合せ＞ 本場結城紬調査ユネスコ無形文化遺産登録5周年記念事業実行委員会事務局 （小山市経済部工業振興課内） 電話：0285-22-9397

提携支援センター活動日誌　No. 45（H27.9.1 ～ H27.10.31）

年月日	活　動　内　容　等
27.9.2 ～ 27.9.3	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る蚕種業者等との打合せ（長野県）
27.9.10 ～ 27.9.11	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る埼玉県庁等との打合せ（埼玉県）
27.9.12	宝絹展の打合せ（宮城県）
27.9.15	純国産絹マーク審査委員会（平成 27 年度第 3 次：書面審査）（東京都有楽町　蚕糸会館）
27.9.28 ～ 27.9.30	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る愛媛県庁等との打合せ（愛媛県）
27.10.15 ～ 27.10.16	シルク・サミット 2015in 滋賀長浜への出席及び提携グループの視察（滋賀県）

「お蚕ラボ」（日本橋三越）（H 27.9.16 ～ 22）

平成 27 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 27 年度第３次審査会を平成 27 年９月 15 日（火）に開催しました。今回は、７者から申請があり、新規申請者が１者２品目、使用許諾されている６者が製品の追加１品目、履歴の追加２品目、数量の追加 16 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、７者 21 品目に対し、９月 24 日（木）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 （表示責任者名）	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 （繭生産地・企業等）
（新規） （株）長沼 （長沼静きもの学院） 代表者名：長沼秀明 （担当者：長沼秀明） 〒 150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-14-10 長沼ビル TEL：03-3409-5855 表示者登録番号　211	後染反物（小紋）	２０反	制作企画　田中種（株） 繭生産　JA にったみどり管内養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　南久ちりめん（株） 染　色　髙田勝（株）
	後染反物（小紋）	１０反	制作企画　田中種（株） 繭生産　JA にったみどり管内養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　芝井（株） 染　色　髙田勝（株）
（数量の追加） （株）髙島屋 代表者名：木本茂 （担当者：武田陽子） 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号　030	後染反物（振袖）	３５枚	繭生産　JA 那須南管内養蚕農家 製　糸　松岡 (株) 製　織　美雲織物 (株) 染色加工　(株) 千總
	後染反物（振袖）	２６枚	繭生産　JA 那須南管内養蚕農家 製　糸　松岡 (株) 製　織　(株) 松浦絹織 染色加工　(株) 千總
	後染反物（振袖）	１３２枚	繭生産　JA 那須南管内養蚕農家 製　糸　松岡 (株) 製　織　(株) 竹林 染色加工　(株) 千總

提携支援センターから

純国産絹マーク使用許諾企業名 （表示責任者名）	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 （繭生産地・企業等）
（製品・履歴・数量の追加） （株）千總 代表者名：仲田保司 （担当者：俵武司） 〒604-8166 京都市中京区御倉町80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号　001	（数量の追加） 後染反物 （振袖）	５０枚	繭生産　岩手県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　（株）竹林 染　色　自社
	（数量の追加） 後染反物 （訪問着・付下）	７０枚	繭生産　福島県・山形県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　河籐（株） 染　色　自社
	（製品の追加） 後染反物 （訪問着・色留袖）	４５枚	繭生産　福島県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　（株）竹林 染　色　自社
	（数量の追加） 後染反物 （振袖）	７５枚	繭生産　岩手県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　（株）松浦絹織 染　色　自社
	（数量の追加） 後染反物 （訪問着・付下）	９０枚	繭生産　岩手県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　（株）竹林 染　色　自社
	（履歴の追加） 後染反物 （訪問着・付下）	１０５枚	繭生産　山形県・群馬県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　田勇機業（株） 染　色　自社
	（履歴の追加） 後染反物 （色無地）	４５枚	繭生産　福島県・岩手県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　足忠（有） 染　色　自社
	（数量の追加） 後染反物 （色無地）	４５枚	繭生産　岩手県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　（有）田永織物 染　色　自社
	（数量の追加） 後染反物 （訪問着・付下）	１５０枚	繭生産　福島県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　小熊機業（有） 染　色　自社
	（数量の追加） 後染反物 （振袖）	９０枚	繭生産　福島県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　（株）松浦絹織 染　色　自社
	（数量の追加） 後染反物 （振袖・訪問着・付下）	９０枚	繭生産　岩手県・宮城県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　美雲織物（株） 染色加工　自社
	（数量の追加） 後染反物 （振袖・訪問着・付下）	１８０枚	繭生産　岩手県・宮城県内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　（株）竹林 染　色　自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 （表示責任者名）	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 （繭生産地・企業等）
（数量の追加） 有限会社山田呉服店 代表者名　山田恒 （担当者：山田恒） 〒392-0004 長野県諏訪市諏訪１丁目３－４ TEL：0266-58-0694 表示者登録番号：174	白生地 (変り一越)	５反	繭生産　JA 信州諏訪管内 牛山　金一 製　糸　松澤製糸所 製　織　南久ちりめん（株）
（数量の追加） （株）夢工芸染の新井 代表者名：新井重男 （担当者：新井重男） 〒123-0863 東京都足立区谷在家1-8-1 TEL：03-3854-2777 表示者登録番号　196	白生地 (変り一越)	１０反	繭生産　JA 常陸管内養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　南久ちりめん（株）
（数量の追加） （株）嵯が野 代表者名：野田幸雄 （担当者：野田幸雄） 〒350-1109 埼玉県川越市霞ケ関北3-1-11 TEL：049-233-1391 表示者登録番号　197	白生地 (変り一越)	１３反	繭生産　JA いるま野管内養蚕農家 製　糸　松澤製糸所 製　織　南久ちりめん（株）
（数量の追加） 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 （担当者：土井芳文） 〒370-0006 群馬県高崎市問屋町３丁目5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号　021	白生地 (変り一越)	３０反	制作企画　絹小沢（株） 蚕品種　新小石丸 繭生産　JA 碓氷安中管内養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　南久ちりめん（株） 精練加工　浜縮緬工業協同組合

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成 27 年 9 月 15 日（H27－第 3 次）現在

表示者登録番号	企　業　名	所　在　地	主　な　絹　製　品　名
001	（株）千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	（株）織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	（株）丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	（株）坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	（有）平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	（株）信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	（株）きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	（株）上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	（有）樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	（株）銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	（有）織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	（株）結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	（株）絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	（有）琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	（有）大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合（絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま２００、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（変一越：世紀二一，上州絹星・ぐんま２００，新小石丸）、後染帯地（(冬物・夏物)：うるし糸が５％を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	２１世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が５％を超えるもの）

表示者登録番号	企　業　名	所　在　地	主　な　絹　製　品　名
027	（有）織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））
028	（株）丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地）、後染帯地、白生地（表地）
029	（株）むらかね	青森県八戸市	後染反物（色無地、黒紋付）
030	（株）髙島屋	大阪市中央区	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）、風呂敷
031	（株）さが美	横浜市港南区	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
032	（有）まるけい	静岡県富士市	後染反物（色無地、黒紋付）
033	（有）特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物（色無地、黒紋付）
034	（株）小いけ	山形県鶴岡市	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
035	（株）伊と幸	京都市中京区	後染反物（色無地）、白生地（表地、胴裏、帯地）、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	（株）四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
037	（株）和幸	埼玉県久喜市	後染反物（色無地、黒紋付）
038	（株）桝屋高尾	京都市北区	先染帯地（袋帯）
039	（株）つるや	埼玉県川越市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
040	（株）越後屋	千葉県市川市	後染反物（色無地、黒紋付）
041	（株）小倉商店	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村　山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染服地、ストール
045	手織りよおん　長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	（株）龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房　深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物（紋絽、絣）、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音（株）	京都市中京区	後染反物（色無地（変三越、駒絽））
051	やまと（株）	京都市下京区	後染反物
053	桜井（株）	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物（有）	京都市上京区	先染帯地
055	太田和（株）	京都市中京区	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
056	（株）岩田	京都市中京区	先染帯地
057	（有）神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物（色無地、黒紋付）
058	浅山織物（株）	京都市北区	先染帯地
059	（株）やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地（金銀糸が５％を超えるもの）
060	田中種（株）	大阪市中央区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺）、後染帯地（九寸名古屋帯）、ニット（靴下、ネック＆ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢）

表示者登録番号	企　業　名	所 在 地	主　な　絹　製　品　名
061	（株）京扇	東京都中央区	後染反物（色無地）、胴裏（パールトーン加工）
062	（株）なごみや	横浜市都筑区	後染反物（色無地、黒紋付）
063	丸池藤井（株）	京都市中京区	後染反物（色無地）、八掛
064	久保商事（株）	京都市中京区	和装小物（帯揚、半衿）
065	加賀グンゼ（株）	石川県小松市	胴裏
066	千切屋（株）	京都市中京区	後染反物（訪問着、付下）、後染帯地
067	荒川（株）	京都市下京区	和装小物（帯締、帯揚）
068	第一衣料（株）	東京都中央区	後染反物（色無地）
069	（株）紅輪	川崎市宮前区	後染反物（色無地）
070	装いの道（株）	東京都千代田区	白生地（帯地、表地）、胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま200、新小石丸）
071	（株）髙橋屋	岩手県一関市	胴裏（灰汁浸加工）
072	おお又（株）	大阪市旭区	胴裏（灰汁浸加工）、ニット（靴下）
073	（株）天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏（ぐんま200（灰汁浸加工））、白生地（表地）
074	（株）きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏（パールトーン加工）
075	（株）とみひろ	山形県山形市	胴裏（酵素精練）
076	（株）細安	福井県福井市	胴裏（酵素精練）
077	京和きもの（株）	神奈川県厚木市	胴裏（酵素精練）
078	（株）まるため	長野県長野市	胴裏（トルマリン加工、パーリー加工）
079	（株）小川屋	群馬県前橋市	胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工）
080	（株）エムラ	山口県防府市	胴裏（酵素精練）
081	（株）荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏（酵素精練）
082	（株）牛島屋	富山県富山市	胴裏（酵素精練）、後染反物（小紋）
083	（株）谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏（酵素精練）
084	（株）登美屋	岩手県北上市	胴裏（パールトーン加工）
085	（株）川平屋	愛知県豊田市	胴裏（パールトーン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
086	丸専第一衣料（株）（丸専きもの）	新潟県長岡市	胴裏（パールトーン加工）
087	（株）大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地（胴裏、比翼地（振袖用））、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール
089	（株）あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
090	藤井絞（株）	京都市中京区	後染反物（色無地）
092	（有）　結城屋	兵庫県洲本市	白生地（表地）
093	（株）　ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地（表地）
095	（有）カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スーツ地、ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、シャツ））
096	（株）北尾織物匠	京都市上京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）
097	（株）平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）、羽織紐（男物、女物）

表示者登録番号	企　業　名	所　在　地	主　な　絹　製　品　名
098	（株）菱健	京都市中京区	後染反物（色無地）
099	西野（株）	京都市上京区	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）
100	京商（株）	鳥取県米子市	後染反物（色無地、黒紋付）
101	（株）猪井	新潟県長岡市	後染反物（色無地）、後染帯地
102	（株）たちばな	新潟県新発田市	後染反物（色無地）、後染帯地
103	（株）丸富美	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
104	（株）絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物（色無地）
105	（株）山正山﨑	愛知県豊橋市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
106	（有）こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物（色無地）
107	（株）染織近藤	岡山市北区	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
108	（株）宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物（色無地、付下）
109	（株）和らいふ	札幌市中央区	後染反物（色無地）
110	（有）きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物（色無地）
111	（株）世きね	東京都中央区	後染反物
112	（株）西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地（袋帯（金銀糸が5%を超えるもの）、九寸帯（金銀糸が5%を超えるもの）、絽九寸帯（金銀糸が5%を超えるもの））
113	奥順（株）	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド）
115	（有）金屋	新潟県上越市	後染反物（色無地）
116	（株）鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏（酵素精練）、先染反物（結城紬）
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物（色無地）
119	（資）車屋呉服店	横浜市南区	後染反物（色無地、江戸小紋）、白生地（表地）
120	宮崎（株）	茨城県結城市	先染反物（結城紬）
121	（有）内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地（表地（色無地、訪問着））
122	長島繊維（株）	栃木県足利市	後染反物（色無地、小紋、付下、訪問着）、後染帯地
123	（株）しょう美	広島市西区	後染反物（色無地）
124	（資）治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物（色無地）
125	（株）丸十	大阪府東大阪市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
126	（株）竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏（酵素精練）
127	（有）樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地（表地用（紋意匠））
128	大門屋	福井県大野市	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）、ショール（牛首紬）
129	（株）加藤萬	東京都中央区	和装小物（帯揚、半衿）
130	（株）しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物（小紋）
131	（資）山中商店	名古屋市中区	後染反物（小紋）
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物（小紋）
133	西川産業（株）	東京都中央区	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣（長肌着、短肌着）

表示者登録番号	企　業　名	所　在　地	主　な　絹　製　品　名
136	（株）和想	鳥取県鳥取市	後染反物（小紋）
137	（株）髙島屋呉服店	島根県益田市	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー（手織り）
139	（株）丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物（小紋）
140	（株）染織館	徳島県徳島市	後染反物（小紋）
141	（株）京ろまん	奈良県奈良市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
142	五嶋（株）	東京都文京区	帯締
143	（株）わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	（株）布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
145	（有）明石屋	東京都調布市	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井（株）	京都市中京区	風呂敷
147	（株）ナカノ	大分県大分市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	（株）芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	（株）甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ、袱紗
150	（有）さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物（色無地、付下）
151	（株）西松屋	兵庫県姫路市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	（株）西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物（株）	京都市北区	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	（有）石川	群馬県みどり市	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	（株）ふじや	福岡県朝倉市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物（小紋）
159	（株）ＪＳ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、シャツ）、服飾品（スカーフ、ストール）
160	（株）マルシバ	東京都中央区	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）
161	（株）みつわ	大阪府大東市	後染反物（小紋）
162	福絖織物（株）	福岡市西区	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）
163	（株）大谷屋	新潟市中央区	白生地(表地)
164	（株）東京藤屋 （きものレディ着付け学院）	東京都品川区	白生地(表地)
165	（株）染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品（布団、膝かけ）、ショール
167	（株）にしむら	兵庫県西脇市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
168	（有）きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
169	（株）コノエ （そめの近江）	東京都豊島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））、ニット（靴下）
170	（株）つたや	大阪府枚方市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
171	（株）京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））

表示者登録番号	企　業　名	所 在 地	主　な　絹　製　品　名
172	（株）マエノ	茨城県石岡市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
173	（株）本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
174	（有）山田呉服店	長野県諏訪市	白生地（変一越）、先染反物（大島紬）
175	（株）呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
176	（株）京呉服平田	福井県福井市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
177	（株）布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物（置賜紬）、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物（大島紬）、先染帯地（大島紬）
179	（株）宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地（八寸名古屋帯）
180	（有）シンセイ	長野県松本市	ニット（腹巻、靴下）
181	（株）百花	横浜市中区	後染反物（小紋（変一越））
182	京呉服好一（株）	京都市北区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
183	（株）パールトーン	京都市右京区	胴裏（パールトーン加工）
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物（小紋（変一越））
185	マテリアル　ローブ　麿	東京都練馬区	後染反物（小紋（変一越））
186	（株）せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物（小紋（変一越）、訪問着）、先染反物（絣着尺）
187	（株）三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地（表地）、帯締、羽織紐、帯締（金銀糸が 5%を超えるもの）
188	青山きもの（株）	東京都港区	白生地（表地）
189	ニット青木（株）	東京都品川区	ニット（スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー）
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物（綾御召（男物、女物））、裏地（紬八掛）
191	（株）リンクピース	福岡市博多区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
192	（有）新宮（きもの宮下）	宮崎県宮崎市	後染反物（小紋（変一越））
193	アトリエＩＴＯ　伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房　築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家　杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	（株）夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地（変一越）、先染反物（大島紬）
197	（株）嵯が野	埼玉県川越市	白生地（変一越）、先染反物（大島紬）
198	（株）カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	（株）新田	山形県米沢市	後染反物（ぼかし着尺）
200	（株）ソーホー	京都市下京区	白生地（紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬）、後染反物（本加賀訪問着）
201	（株）すずのき	東京都品川区	後染反物（訪問着・色無地）
202	メーカーズシャツ鎌倉（株）	神奈川県鎌倉市	ニット（肌着）
203	（株）丸本岩崎	北海道函館市	裏地（胴裏絹）
204	（株）緒方商店（きもの心おがた）	愛媛県八幡浜市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
205	富士新幸（株）	山梨県都留市	真綿布団
206	（有）浅井ローケツ	京都市中央区	後染反物（色無地・藍染）
207	（有）呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地（変一越）
208	（株）ADESSO（きもの工房一休）	神戸市中央区	白生地（変一越）

表示者登録番号	企　業　名	所　在　地	主　な　絹　製　品　名
209	森秀織物（株）	群馬県桐生市	先染反物（御召）
210	（株）龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地（本袋帯（金銀糸が5%を超えるもの））
211	（株）長沼 （長沼静きもの学院）	東京都渋谷区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））

晩秋の大日本蚕糸会蚕業技術研究所
（野沢瑞佳撮影）

蚕糸絹関係博物館一覧

名　　称	〒	住　　所	電　話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道 (ちどう) 博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫　992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館 “紫 (ゆかり)”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館 (桐生織物協同組合)	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里木織の家「橡 (つるばみ)」	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鑓水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800

名　　称	〒	住　　所	電　話
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227‐1	0257-82-4888
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1‐7‐40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619‐1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1‐10‐3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564‐1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196‐1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618‐4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299‐1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109‐1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204‐1	059-293-0010
手おりの里・金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448‐2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町　グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246‐2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製糸記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行　政】

農林水産省	http://www.maff.go.jp
経済産業省	http://www.meti.go.jp

【蚕糸絹業関係団体】

（一財）大日本蚕糸会	http://www.silk.or.jp
（一財）大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター	http://www.silk-center.or.jp
（一社）日本絹人繊織物工業会	http://www.kinujinsen.com
（一財）日本真綿協会	http://www.mawata.or.jp
丹後織物工業組合	http://www.tanko.or.jp
西陣織工業組合	http://www.nishijin.or.jp
ＴＡＦＳ（東京織物卸商業組合）	http://www.tafs.or.jp
ＫＯＭＳ（京都織物卸商業組合）	http://www.fashion-kyoto.or.jp
（公財）京都和装産業振興財団	http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html
（一財）伝統的工芸品産業振興協会	http://www5.somard.co.jp
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会	http://takaraginu.com

【大学・試験研究機関】

（国研）農業生物資源研究所	http://www.nias.affrc.go.jp
（国）北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室	http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html
（国）岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫研究室	http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html
（国）宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室	http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research/
（国）東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室	http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html
（国）東京農工大学農学部生物生産学科	http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan
（国）東京農工大学工学部生命工学科	http://www.tuat.ac.jp/~seimei
（国）名古屋大学農学部	http://www.agr.nagoya-u.ac.jp
（国）信州大学繊維学部	http://www.tex.shinshu-u.ac.jp
（国）京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程	http://www.bio.kit.ac.jp
（国）京都工芸繊維大学	http://www.kit.ac.jp
（国）鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野	http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/
（国）山口大学農学部生物資源環境科学科	http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html
（国）九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室	http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku
群馬県蚕糸技術センター	http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html
群馬県繊維工業試験場	http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html
京都府織物・機械金属振興センター	http://www.pref.kyoto.jp/oriki/
（地独）京都市産業技術研究所	http://www.tc-kyoto.or.jp
（公財）衣笠繊維研究所	http://krf-textile.or.jp
（一財）大日本蚕糸会　蚕糸科学研究所	http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
（一財）大日本蚕糸会　蚕業技術研究所	http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学　会】

日本シルク学会	http://jssst.sakura.ne.jp
（一社）日本蚕糸学会	http://jsss.or.jp
日本野蚕学会	http://jswsmo.appspot.com

【博物館】

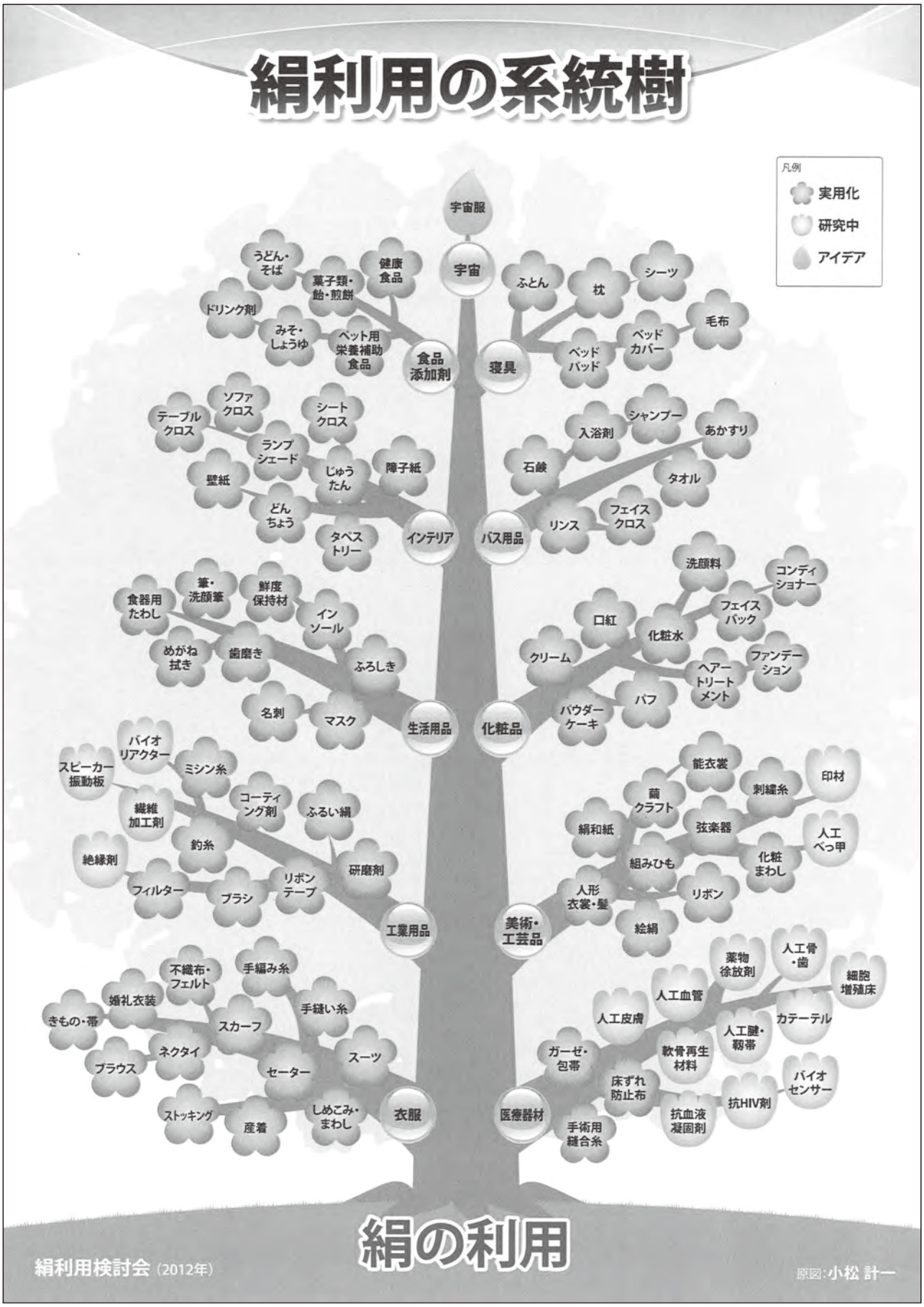
（一財）ｼﾙｸｾﾝﾀｰ国際貿易観光会館　ｼﾙｸ博物館	http://www.silkmuseum.or.jp
群馬県立日本絹の里	http://www.nippon-kinunosato.or.jp
愛媛県西予市野村シルク博物館	http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum
東京農工大学科学博物館	http://www.tuat.ac.jp/~museum

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム	http://www.cek.ne.jp/~shiruku
織成館（京都・上京）	http://orinasukan.skr.jp
高崎市染料植物園	http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097
群馬県立歴史博物館	http://grekisi.pref.gunma.jp
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	http://silkfact.jp
はたや記念館ゆめおーれ勝山	http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場	http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html
群馬県 企画部 世界遺産課	http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja
ぐんま絹遺産	http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan
上毛新聞社関連記事	http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html


絹利用の系統樹
凡例
実用化
研究中
アイデア
宇宙服
宇宙
食品添加剤
寝具
インテリア
バス用品
生活用品
化粧品
工業用品
美術・工芸品
衣服
医療器材
うどん・そば
菓子類・飴・煎餅
健康食品
ドリンク剤
みそ・しょうゆ
ペット用栄養補助食品
ふとん
枕
シーツ
毛布
ベッドカバー
ベッドパッド
ソファクロス
テーブルクロス
シートクロス
ランプシェード
壁紙
じゅうたん
障子紙
どんちょう
タペストリー
入浴剤
シャンプー
あかすり
石鹸
タオル
リンス
フェイスクロス
筆・洗顔筆
鮮度保持材
食器用たわし
インソール
めがね拭き
歯磨き
ふろしき
名刺
マスク
洗顔料
コンディショナー
フェイスパック
口紅
化粧水
クリーム
ファンデーション
ヘアートリートメント
パフ
パウダーケーキ
バイオリアクター
スピーカー振動板
ミシン糸
繊維加工剤
コーティング剤
ふるい絹
釣糸
絶縁剤
フィルター
ブラシ
リボンテープ
研磨剤
能衣裳
印材
刺繍糸
繭クラフト
絹和紙
弦楽器
人工べっ甲
組みひも
化粧まわし
人形衣裳・髪
リボン
絵絹
不織布・フェルト
手編み糸
婚礼衣装
手縫い糸
きもの・帯
スカーフ
ネクタイ
ブラウス
セーター
スーツ
ストッキング
産着
しめこみ・まわし
薬物徐放剤
人工骨・歯
細胞増殖床
人工血管
人工皮膚
カテーテル
人工腱・靭帯
ガーゼ・包帯
軟骨再生材料
床ずれ防止布
バイオセンサー
抗血液凝固剤
抗HIV剤
手術用縫合糸
絹の利用
絹利用検討会（2012年）
原図：小松 計一

統計資料目次

＜国内＞

（1）蚕糸絹業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
（2）養蚕農家数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
（3）繭生産数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
（4）蚕期別、都府県別養蚕農家戸数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
（5）蚕期別、都府県別繭生産数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
（6）蚕品種別蚕種製造数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
（7）生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
（8）生糸の繊度別生産数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
（9）絹需給の推移（生糸量換算試算）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
（10）品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算） ・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
（11）製糸工場の原料繭需給 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
（12）製糸工場の操業状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
（13）生糸在庫数量の内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
（14）蚕糸関係品目別輸入状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
（15）生糸の原産国別輸入数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
（16）絹糸の原産国別輸入数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
（17）生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価 ・・・・・・・・・・・・・ 62
（18）絹織物生産数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
（19）丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
（20）全国全世帯被服類品目別消費支出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

＜海外＞

（1）世界主要国の家蚕繭生産数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
（2）世界主要国の家蚕生糸生産数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
（3）中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格 ・・・・・・・・・・・・・ 68
（4）ブラジルの繭・生糸生産数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

ー資料・国内ー

(1)蚕糸絹業の概要
Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次（暦年）Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸生産量 Raw Silk Production	運転工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織織機設備台数（保有台数）Number of Silk Loom	絹織物生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千m² 1,000 sq.meters
（平成）								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	10,418
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	9,974
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	35	32.0	10,054
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	35		9,368
前年対比(%) 2014/13	80.9	88.7	109.7	100.0	100.0	100.0	−	93.2

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。
・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織織物工業会調査である。
平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
・平成23年以降の養蚕業は（一財）大日本蚕糸会調査である。
（注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(Silk-Reeling , after 2009)
・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric ,before 2008)
・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.(After 2002,all reeling mills)

(2)養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

（単位：戸）
(Unit : number)

項目 Item / 年次 Year	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994	19,040	16,790	13,190	14,790
1995	13,640	12,450	9,560	9,580
1996	7,890	6,980	5,000	6,290
1997	6,310	5,650	4,420	5,120
1998	5,070	4,550	3,750	4,120
1999	4,030	3,600	2,710	3,280
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2001	2,730	2,410	1,870	2,270
2002	2,360	1,992	1,720	1,918
2003	2,070	1,875	1,503	1,751
2004	1,850	1,621	1,371	1,551
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2006	1,345	1,215	852	1,102
2007	1,169	1,052	726	988
2008	1,021	929	613	857
2009	915	814	647	755
2010	756	650	494	637
2011	627	562	358	531
2012	571	514	319	462
2013	486	422	260	399
2014	393	359	230	328
対前年比 2014/13(%)	80.9	85.1	88.5	82.2

資　料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、(一財)大日本蚕糸会調査(2009年～)。

Source　: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

項目 Item / 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002	880	330	231	320	373	166	134	167
2003	775	313	210	253	374	167	140	144
2004	675	256	176	243	369	158	128	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2006	505	209	122	173	375	172	143	157
2007	433	175	110	148	371	166	152	150
2008	382	147	96	139	374	158	157	162
2009	327	124	85	118	357	152	131	156
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
対前年比 2014/13(%)	88.7	90.2	87.8	86.6	109.6	105.8	99.6	104.8
2014年 構成比(%)	100.0	36.9	24.2	38.9				

資　料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査(2009年～)。

Source　: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

（単位:戸、%）

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年　間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	0	−	−	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	14	15	107.1	14	10	71.4	17	15	88.2	19	18	94.7
宮城県	17	11	64.7	10	11	110.0	13	14	107.7	21	17	81.0
山形県	7	7	100.0	6	5	83.3	6	6	100.0	8	8	100.0
福島県	53	40	75.5	23	41	178.3	57	47	82.5	58	48	82.8
茨城県	18	18	100.0	13	11	84.6	15	13	86.7	21	18	85.7
栃木県	22	23	104.5	17	18	105.9	23	23	100.0	26	23	88.5
群馬県	157	130	82.8	107	84	78.5	160	120	75.0	181	140	77.3
埼玉県	36	30	83.3	28	20	71.4	29	27	93.1	41	31	75.6
千葉県	7	6	85.7	5	5	100.0	7	5	71.4	7	6	85.7
東京都	4	4	100.0	0	−	−	4	3	75.0	5	4	80.0
新潟県	10	8	80.0	0	−	−	0	−	−	10	8	80.0
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	9	11	122.2	7	5	71.4	13	11	84.6	15	12	80.0
長野県	21	14	66.7	16	10	62.5	18	13	72.2	22	17	77.3
岐阜県	13	11	84.6	0	−	−	12	9	75.0	13	11	84.6
愛知県	2	2	100.0	0	−	−	1	−	−	2	2	100.0
京都府	4	3	75.0	0	−	−	3	2	66.7	4	3	75.0
兵庫県	1	1	100.0	0	−	−	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	12	11	91.7	7	5	71.4	10	9	90.0	15	11	73.3
高知県	3	3	100.0	0	−	−	2	2	100.0	3	3	100.0
熊本県	6	5	83.3	0	−	−	3	2	66.7	7	5	71.4
宮崎県	2	2	100.0	2	−	−	0	1	−	2	2	100.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	422	359	85.1	260	230	88.5	399	328	82.2	486	393	80.9

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5)蚕期別、都府県別繭生産数量

Cocoon production by prefectures

（単位：kg、%）

都府県等	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	-	-	-	119.3	113.7	95.3%	151.9	93.7	61.7%	271.2	207.4	76.5%
岩手県	1,928.5	1,619.2	84.0%	2,348.0	1,450.7	61.8%	2,597.2	1,989.4	76.6%	6,873.7	5,059.3	73.6%
宮城県	2,369.7	1,791.2	75.6%	2,242.6	2,267.0	101.1%	2,699.2	2,363.9	87.6%	7,311.5	6,422.1	87.8%
山形県	1,311.0	1,222.5	93.2%	821.9	597.6	72.7%	1,482.0	1,570.4	106.0%	3,614.9	3,390.5	93.8%
福島県	10,475.9	8,335.8	79.6%	9,996.8	8,246.5	82.5%	13,435.7	11,998.8	89.3%	33,908.4	28,581.1	84.3%
茨城県	2,925.2	2,335.3	79.8%	1,499.5	1,314.7	87.7%	2,652.3	2,292.5	86.4%	7,077.0	5,942.5	84.0%
栃木県	5,923.3	8,047.0	135.9%	4,015.9	4,528.4	112.8%	9,809.9	10,309.9	105.1%	19,749.1	22,885.3	115.9%
群馬県	21,487.6	19,166.0	89.2%	13,463.2	11,382.4	84.5%	22,606.5	16,456.4	72.8%	57,557.3	47,004.8	81.7%
埼玉県	5,215.7	3,796.1	72.8%	2,854.0	2,191.5	76.8%	4,657.7	3,708.5	79.6%	12,727.4	9,696.1	76.2%
千葉県	917.5	1,001.6	109.2%	490.4	568.2	115.9%	1,028.4	1,026.2	99.8%	2,436.3	2,596.0	106.6%
東京都	242.3	210.4	86.8%	-	-	-	165.1	133.0	80.6%	407.4	343.4	84.3%
山梨県	2,157.8	2,372.2	109.9%	420.6	813.6	193.4%	1,495.4	1,882.0	125.9%	4,073.8	5,067.8	124.4%
長野県	1,951.5	1,813.2	92.9%	1,413.7	1,319.9	93.4%	1,864.9	1,771.7	95.0%	5,230.1	4,904.8	93.8%
新潟県	131.9	124.6	94.5%	-	-	-	-	-	-	131.9	124.6	94.5%
福井県	27.6	41.7	151.1%	14.3	33.3	232.9%	37.6	34.5	91.8%	79.4	109.4	137.8%
岐阜県	803.1	673.5	83.9%	-	-	-	439.0	568.3	129.5%	1,242.1	1,241.8	100.0%
愛知県	80.5	58.4	72.5%	0.0	-	-	17.7	0.0	0.0%	98.2	58.4	59.5%
兵庫県	40.0	55.0	137.5%	0.0	-	-	35.0	65.0	185.7%	75.0	120.0	160.0%
京都府	102.9	82.7	80.4%	-	-	-	40.8	41.5	101.7%	143.7	124.3	86.5%
愛媛県	1,753.0	1,596.1	91.0%	1,005.8	952.2	94.7%	1,186.9	1,141.8	96.2%	3,945.7	3,690.1	93.5%
高知県	162.0	177.7	109.7%	-	-	-	16.0	82.4	515.0%	178.0	260.1	146.1%
熊本県	463.3	459.2	99.1%	-	-	-	340.1	73.6	21.6%	803.4	532.8	66.3%
宮崎県	88.1	113.7	129.1%	-	-	-	95.6	34.4	36.0%	183.7	148.1	80.6%
鹿児島県	46.6	82.0	176.0%	43.3	77.0	177.8%	57.5	71.0	123.5%	147.4	230.0	156.0%
全国計	60,604.8	55,175.0	91.0%	40,749.3	35,856.6	88.0%	66,912.4	57,708.9	86.2%	168,266.4	148,740.5	88.4%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6)蚕品種別蚕種製造数量の推移
Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item ＼ Year	2011年（平成23年） 箱 box	割合 rate %	2012年（平成24年） 箱 box	割合 rate %	2013年（平成25年） 箱 box	割合 rate %	2014年（平成26年） 箱 box	割合 rate %
錦秋１号×鐘和１号	2,729	24.6	2,806	27.6	2,450	21.9	3,278	33.4
錦秋×鐘和	2,100	19.0	1,818	17.8	3,221	28.8	1,754	15.7
春嶺×鐘月	1,002	9.0	838	8.2	1,871	16.7	1,116	10.0
ぐんま２００	1,388	12.5	1,443	14.2	1,125	10.1	1,104	9.9
春嶺１号×鐘月１号	1,419	12.8	1,175	11.5	380	3.4	872	7.8
松岡姫	300	2.7	340	3.3	547	4.9	350	3.1
かいりょう×あけぼの	435	3.9	416	4.1	166	1.5	140	1.3
小石丸	72	0.6	67	0.7	76	0.7	134	1.2
新小石丸	396	3.6	324	3.2	317	2.8	129	1.2
プラチナボーイ	66	0.6	64	0.6	76	0.7	128	1.1
ぐんま細					47	0.4	126	1.1
ぐんま黄金	76	0.7	70	0.7	64	0.6	103	0.9
白繭細１号	77	0.7	93	0.9	85	0.8	92	0.8
いろどり	134	1.2	55	0.5	111	1.0	76	0.7
朝日×東海	50	0.5	50	0.5	67	0.6	58	0.5
改良小石丸	78	0.7	33	0.3	48	0.4	52	0.5
蚕技研11号	52	0.5	36	0.4	53	0.5	42	0.4
山東３眠×Ｃ５・507					7	0.1	33	0.3
白麗					92	0.8	31	0.3
世紀二一	132	1.2	95	0.9	71	0.6	23	0.2
大寶×黄金					63	0.6	23	0.2
秋光×竜白	5	0.0					22	0.2
黄白	15	0.1	33	0.3	42	0.4	20	0.2
玉小石	22	0.2	15	0.1	17	0.2	20	0.2
緑繭２号			7	0.1	41	0.4	18	0.2
極細１号	5	0.0	15	0.1	21	0.2	16	0.1
Nk×Cu1							10	0.1
太平×長安	13	0.1	28	0.3	49	0.4	8	0.1
白繭細２号	2	0.0					8	0.1
青熟×支21号	8	0.1	7	0.1	6	0.1	5	0.0
支21号×四川３眠	6	0.1	4	0.0	4	0.0	4	0.0
N5・N6×TY40							4	0.0
奄美黄金							4	0.0
極細３号							3	0.0
玉繭３号							2	0.0
緑繭１号	62	0.6	27	0.3	33	0.3		
鷹山	20	0.2	5	0.0	9	0.1		
支108号×青熟	7	0.1	7	0.1	8	0.1		
山東３眠×Ｃ５・505					4	0.0		
青熟×中515号	2	0.0	2	0.0	2	0.0		
又昔×中515号					1	0.0		
芙蓉×つくばね	180	1.6	143	1.4				
はくぎん	22	0.2	80	0.8				
朝日×つくばね	80	0.7	61	0.6				
改良×黄繭			10	0.1				
琉球多蚕繭	2	0.0	7	0.1				
山東３眠×Ｃ5			7	0.1				
中515号×又昔	2	0.0	2	0.0				
諸桂×紹興	1	0.0	1	0.0				
鬼縮×中515号	1	0.0	1	0.0				
上州絹星	86	0.8						
鐘光×黄玉	30	0.3						
秋花×銀嶺	3	0.0						
合計 Total	11,080	100.0	10,185	100.0	11,174	100.0	9,808	100.0

資　料：（一財）大日本蚕糸会調査。
Source　: The Dainippon Silk Foundation.

(7)生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item / 年月 Year & Month	生糸 Raw Silk					絹糸 Silk Yarn		絹織物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2013 — 1	38	958	0	1,014	2,162	1,744	11	582	356
2	32	906	0	818	2,282	1,138	13	505	409
3	36	1,148	122	912	2,432	1,337	44	456	525
4	36	0	2	565	1,901	1,552	16	601	485
5	35	1,314	0	969	2,281	1,628	23	679	483
6	36	926	0	977	2,266	1,175	21	592	479
7	28	611	0	702	2,203	1,326	66	671	461
8	19	758	168	715	2,097	1,288	61	501	416
9	26	566	0	743	1,946	918	68	447	403
10	40	855	0	934	1,907	1,354	45	567	465
11	42	491	0	739	1,701	1,351	19	570	500
12	41	800	0	830	1,712	1,033	40	491	450
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 — 1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0			1,238	47	371	391
9	23								

資　料：(A)(C)(D)(E)農林水産省生産局調査（～2010.3）、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.3）、中央蚕糸協会（2012.12～）。(B)財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F)(G)(H)(I)財務省関税局調査。

備　考：1.国内引渡数量(D)＝｛前月在庫数量＋(A)＋(B)｝－｛(C)＋(E)｝。
2.kgを60kg俵に換算しているので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3.(D)と(E)は2012年11月までと同年１２月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source　：(A)(C)(D)(E)The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11)、 Central Raw Silk A (2012.12～).
(B)The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan.1996 until Mar.2008, excluding bonded silk.
(F)(G)(H)(I)TheCustoms Bureau, Ministry of Finance.

Remarks　：1.Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-{(C)+(E)}.
2.Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の繊度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

（単位：60kg俵）
(Unit : Bales of 60kg)

項目 Item / 年月 Year & Month	生糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	—	149	202	73	82
2013	409	—	109	105	57	138
2014	447	—	114	116	62	155
2012 − 5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11
8	24	—	8	12	0	4
9	33	—	5	21	0	7
10	39	—	14	14	4	7
11	36	—	18	16	0	2
12	43	—	10	21	5	7
2013 − 1	38	—	16	3	10	9
2	32	—	6	12	5	9
3	36	—	10	15	3	8
4	36	—	7	13	6	10
5	35	—	8	9	9	9
6	36	—	8	13	0	15
7	28	—	8	5	1	14
8	19	—	7	1	0	11
9	26	—	13	1	2	10
10	40	—	9	6	11	14
11	42	—	9	12	6	15
12	41	—	8	15	4	14
2014 − 1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	34	—	9	12	9	4
12	43	—	10	10	8	15
2015 − 1	35	—	10	12	6	7
2	44	—	6	12	12	14
3	37	—	17	11	4	5
4	38	—	16	2	8	12
5	29	—	13	4	0	12
6	37	—	15	6	2	14
7	30	—	13	6	0	11
8	25	—	8	9	0	8
9	23	—	14	3	1	5

資　　料：農林水産省生産局調査（〜2010.3）。中央蚕糸協会（2010.4〜）。
備　　考：kgを60kg俵に換算しているので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
Source　: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（〜2010.3）. Central Raw Silk Association (2010.4〜).
Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9)絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

（単位：千俵）
(Unit : 1,000Bales of 60kg)

項目 Item / 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①	期初在庫 Opening Stocks	生産 Production	輸入 Import 計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	需要計 Demand Total ②=①-④	輸出 Export 計 ③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	内需 Domestic Demand ②-③	期末在庫 Ending Stocks ④
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
対前年比 2014/13(%)	91	98	—	89	89	94	92	88	89	100	—	—	100	100	88	100

資　　料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注）2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source　:"Silk balance and price situation monthly","Trade Statistics"

(10)品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

（単位：千俵）

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item ＼ 暦年 Calendar Year	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	前年比% y/y	構成比% ratio
布はく製 Product made in cloth									
男子用外衣類 Men's upper garments	2.5	1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	109.7	2.3
女子用外衣類 Women's upper garments	40.2	37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	84.1	36.9
うちブラウス Blouse of the inside	3.4	2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	48.3	2.0
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・ bedding cloth	1.6	1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	105.3	1.4
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・ bedding cloth	16.3	13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	106.8	15.1
ハンカチ Handkerchief	0.5	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	75.0	0.2
ショール、スカーフ類 Shawl.scarves	2.9	2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	90.9	1.4
ネクタイ類 Ties	20.8	18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	81.5	6.7
メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting	19.8	15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	78.2	14.1
その他の洋装類 Other western clothes	23.7	22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	94.2	12.3
洋 装 類 計 Western clothes subtotal	128.3	112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	88.1	90.3
和 装 類 計 Japanese clothes subtotal	14.7	15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	93.8	8.4
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside	12.1	13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	91.8	7.0
そ の 他 Others	2.4	1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	78.3	1.2
合 計 Total	145.4	130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	88.5	100.0

資料　：　財務省「日本貿易月報」

注）　：　ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Custums Bureau,Ministry of Finance “Trade Statistics”

Note :Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

（単位：生繭．t）
(Unit : Ton by fresh weight)

項目 Item / 年月 Year & Month	総計 Grand Total		
	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦年 Calendar Year			
2005	806	830	589
2006	600	645	541
2007	548	581	505
2008	393	518	378
2009	308	385	313
2010	240	299	263
2011	189	162	237
2012	185	209	183
2013	142	137	188
2014	128	158	158
2013 — 1	0	11	172
2	1	10	163
3	0	13	150
4	0	14	136
5	3	13	126
6	21	11	136
7	38	10	164
8	16	7	173
9	7	8	172
10	40	13	199
11	4	13	190
12	12	14	188
2014 — 1	0	11	177
2	0	15	162
3	0	12	150
4	0	15	135
5	0	14	121
6	24	14	131
7	29	14	146
8	17	9	154
9	9	11	152
10	38	15	175
11	11	12	174
12	0	16	158
2015 — 1	0	13	145
2	0	14	131
3	0	12	119
4	0	13	106
5	0	11	95
6	22	13	104
7	29	11	122
8	7	8	—
9	3	8	—

資　料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）。
中央蚕糸協会（2012.12～）。

備　考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量−前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)−(Ending stocks of the preceding month).

(12)製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

項目 Item / 年月 Year & Month	運転工場数 Operating Reeling Mills	設備数(台) Reeling Machines 運転可能 Operable	設備数(台) Reeling Machines 運転 Operating	運転率(%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
暦年 Calendar Year						
2005	10	203	126	62	269	111
2006	9	114	94	82	266	103
2007	8	112	93	83	266	100
2008	7	112	90	80	266	90
2009	7	118	71	60	259	82
2010	7	118	58	49	247	73
2011	7	110	57	52	252	65
2012	7	110	39	35	243	56
2013	7	110	38	35	249	57
2014	7	110	38	35	261	58
2013 — 1	7	110	41	37	20	55
2	7	110	36	33	21	55
3	7	110	35	32	22	55
4	7	110	36	33	22	58
5	7	110	33	30	22	60
6	9	110	34	31	18	67
7	8	110	25	23	23	61
8	6	110	16	15	20	53
9	7	110	33	30	14	59
10	7	110	36	33	23	59
11	7	110	37	34	22	57
12	7	110	38	35	22	57
2014 − 1	6	110	38	35	20	57
2	6	110	37	34	23	57
3	6	110	37	34	22	57
4	7	110	37	34	23	57
5	7	110	37	34	22	57
6	9	110	38	35	23	62
7	9	110	39	35	20	62
8	6	110	26	24	23	50
9	7	110	38	35	19	58
10	8	110	38	35	23	62
11	8	110	37	34	21	62
12	7	110	38	35	22	58
2015 − 1	7	110	37	34	20	57
2	7	110	39	35	21	57
3	6	110	38	35	23	61
4	6	110	38	35	23	60
5	7	110	37	34	20	60
6	8	110	39	35	23	60
7	8	110	35	32	22	60
8	6	110	26	24	20	48
9	6	110	23	21	23	48

資　料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012.12～)。

備　考：1.設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。
2.運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。
3.従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source　: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).
Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13)生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

項目 Item / 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一般在庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場売買業者 Dealers	生糸市場外売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出入業者 Ex and Importers	受入数量 Accepts	引渡数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	–	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	–	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	–	2,056				
2013	1,712	1,712	110	–	1,602				
2014	1,653	1,653	78	–	1,575				
2013 — 1	2,162	2,162	136	–	2,026				
2	2,282	2,282	143	–	2,139				
3	2,432	2,432	136	–	2,296				
4	1,901	1,901	137	–	1,764				
5	2,281	2,281	130	–	2,151				
6	2,266	2,266	137	–	2,129				
7	2,203	2,203	118	–	2,085				
8	2,097	2,097	110	–	1,987				
9	1,946	1,946	97	–	1,849				
10	1,907	1,907	103	–	1,804				
11	1,701	1,701	110	–	1,591				
12	1,712	1,712	110	–	1,602				
2014 — 1	1,839	1,839	116	–	1,723				
2	1,887	1,887	114	–	1,773				
3	1,991	1,991	78	–	1,913				
4	1,756	1,756	85	–	1,671				
5	1,999	1,999	99	–	1,900				
6	1,967	1,967	88	–	1,879				
7	1,877	1,877	79	–	1,798				
8	1,786	1,786	74	–	1,712				
9	1,728	1,728	63	–	1,665				
10	1,725	1,725	67	–	1,658				
11	1,642	1,642	66	–	1,576				
12	1,653	1,653	78	–	1,575				
2015 — 1	1,747	1,747	74	–	1,673				
2	1,758	1,758	77	–	1,681				
3	1,911	1,911	80	–	1,831				
4	1,418	1,418	75	–	1,343				
5	1,550	1,550	83	–	1,467				
6	1,535	1,535	88	–	1,447				
7	1,499	1,499	89	–	1,410				
8			41	–					
9			44	–					

資　料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14)蚕糸関係品目別輸入状況
Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成27年(2015) (8月) Aug.	平成27年(2015) (累計) Accumulated Total	平成26年 (2014)	平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	26年/25年 2014/13 (%)
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	467	4,628	8,235	9,332	10,032	9,323	12,207	12,075	88.2
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,238	9,731	14,820	15,844	16,179	17,526	16,306	16,647	93.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	0	33	48	169	81	62	82	149	28.4
繭 Cocoon	kg	0	1,000	10,200	8,300	6,250	4,050	13,158	9,800	122.9
ペニー Peigne	kg	-	-	-	—	—	-	-	35,331	-
くず繭 Waste Cocoon	kg	3,336	7,070	11,728	13,314	6,457	10,885	9,395	33,450	88.1
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	630	56,015	101,655	92,024	107,023	98,732	134,852	125,999	110.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	3,966	63,085	113,383	105,338	107,022	109,617	144,247	159,449	107.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	24,412	254,640	453,450	438,786	482,523	394,920	451,219	335,710	103.3
絹紡紬糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	13,623	96,099	141,707	152,749	140,188	118,404	104,374	97,554	92.8
絹織物 Silk Fabrics	㎡	371,355	3,618,386	6,097,501	6,661,585	7,218,094	8,422,094	8,930,391	9,027,911	91.5

資料：財務省関税局
備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。
Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60ｋｇ俵)
(Unit：Bales of 60kg)

国名 Country / 年月 Year & Month	計 Total		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam		タイ Thailand	その他 Others
暦年 Calendar Year										
2007	12,858		8,804		3,848		–		206	–
2008	15,242	(137)	10,969	(102)	4,152	(35)	–		122	–
2009	12,085	(72)	8,170	(51)	3,855	(21)	–		41	–
2010	12,209	(65)	8,411	(40)	3,706	(25)	–		32	–
2011	9,323	(63)	7,170	(32)	2,136	(30)	–		5	–
2012	10,032	(49)	8,628	(36)	1,403	(13)	–		–	–
2013	9,332	(98)	8,047	(59)	1,275	(34)	10	(5)	–	–
2014	8,241	(75)	7,001	(75)	1,143	(15)	70		7	20
2013 – 1	958	(10)	918	(10)	40		–		–	–
2	906	(9)	698	(7)	207	(2)	–		–	–
3	1,148	(17)	1,083	(17)	65		–		–	–
4	–		–		–		–		–	–
5	1,314	(25)	1,031	(15)	278	(10)	5		–	–
6	925		841		84		–		–	–
7	611	(2)	539		72	(2)	–		–	–
8	758	(15)	577		176	(10)	5	(5)	–	–
9	566		546		20		–		–	–
10	855	(15)	689	(10)	166	(5)	–		–	–
11	491		416		75				–	–
12	800	(6)	708		92	(6)	–		–	–
2014 – 1	776		687		88		–		1	–
2	591	(2)	465	(2)	107		–		–	20
3	1,055	(13)	973	(13)	76		5		–	–
4	270	(4)	169	(4)	100		–		2	–
5	927	(20)	795	(20)	132	(5)	–		–	–
6	869	(7)	683	(7)	133	(10)	50		2	–
7	599		522		75		–		2	–
8	548		459		79		10		–	–
9	591		480		111		–		–	–
10	748	(14)	660	(14)	83		5		–	–
11	667	(5)	564	(5)	103		–		–	–
12	600	(10)	544	(10)	56		–		–	–
2015 – 1	722		510		212		–		–	–
2	614	(2)	589	(2)	15		10		–	–
3	802	(2)	769		33	(2)	–		–	–
4	–		–		–		–		–	–
5	822	(3)	689	(3)	133		–		–	–
6	628	(23)	572	(23)	47		10		–	–
7	572	(15)	534	(10)	36	(5)	–		2	–
8	467	(6)	417	(6)	50		–		–	–

資　　料：財務省関税局調査
備　　考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
　　2. （　）書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source　: The Customs Bureau, Ministry of Finance.
Remarks　: 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
　　2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

（単位：60kg俵）
(Unit : Bales of 60kg)

年月 Year & Month ＼ 国名 Country		計 Total	韓国 S Korea	中国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2012 —	1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	80
	2	758	—	378	216	1	—	162	—
	3	1,143	—	747	281	2	—	113	—
	4	1,092	—	662	326	—	—	103	—
	5	1,531	—	1,001	328	—	—	124	78
	6	1,316	—	727	514	1	—	75	—
	7	1,554	—	907	488	—	—	97	53
	8	1,499	—	897	561	—	—	41	—
	9	1,365	—	773	506	1	—	73	12
	10	1,523	—	953	456	3	—	112	—
	11	1,612	—	982	568	5	—	56	—
	12	1,207	—	824	310	1	—	71	—
2013 —	1	1,744	—	1,080	612	—	—	52	—
	2	1,138	—	616	429	—	—	93	—
	3	1,337	—	940	342	5	—	50	—
	4	1,552	—	880	574	—	—	95	3
	5	1,629	—	1,012	545	1	—	71	—
	6	1,175	—	660	446	3	—	67	—
	7	1,326	—	729	555	4	—	38	—
	8	1,288	—	750	419	1	—	118	—
	9	918	—	489	413	1	—	15	—
	10	1,354	—	682	541	1	—	131	—
	11	1,351	—	676	576	18	—	81	—
	12	1,033	—	635	331	1	—	66	—
2014 —	1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
	2	677	—	313	271	1	—	91	—
	3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
	4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
	5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
	6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
	7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
	8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
	9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
	10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
	11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
	12	1,094	—	647	402	1	—	45	—
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
	5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
	6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
	7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
	8	1,238	—	732	490	—	—	15	1

資　　料：財務省関税局調査。
備　　考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
Source　：The Customs Bureau, Ministry of Finance.
Remarks　：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17)生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵,円/Ｋｇ
Unit:bale of 60kg,yen/kg

項目 Item / 年月 Year & Month	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2013 － 1	918	5,103	40	6,180	1,080	5,172	52	7,079	612	5,084
2	698	6,029	207	6,284	616	5,574	93	7,318	429	5,362
3	1,083	5,733	65	6,749	940	5,959	50	7,806	342	5,789
4	－	－	－	－	880	6,106	95	8,026	574	5,974
5	1,031	6,132	278	7,271	1,012	6,311	71	8,405	545	6,105
6	841	6,237	84	7,517	660	6,461	67	8,602	446	6,505
7	539	5,855	72	7,850	729	6,285	38	8,783	555	6,362
8	577	6,223	176	7,869	750	6,469	118	8,807	419	6,392
9	546	6,250	20	8,035	489	6,468	15	8,853	413	6,485
10	689	6,242	166	8,049	682	6,443	131	8,821	541	6,208
11	416	6,178	75	7,918	676	6,480	181	8,878	576	6,508
－ 12	708	6,494	93	8,355	635	6,702	66	9,383	331	6,585
2014 － 1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220
2015 1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	－	－	－	－	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285

資　料：財務省調査。通関統計による、単価はＣＩＦ価格である。
Source ： The customs Bureau ,Ministry of Finance
Remarks： A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

（単位：1,000㎡）
(Unit : 1,000sq.meters)

品種 Type of Fabrics / 年月 Year & Month	総数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広巾織物 Double Width				小巾織物 Single Width			その他の後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先練(先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先練(先染) Dyed Yarn	
暦年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,298	6,980	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	4,015	1,732	1,193	1,090	5,663	3,449	2,214	1,794
2010	11,612	3,844	1,510	1,254	1,080	6,212	4,029	2,183	1,556
2011	10,418	4,105	2,615	198	1,292	4,338	1,615	2,719	1,979
2012	9,974	4,548	2,482	200	1,875	3,172	1,776	1,395	2,254
2013	10,063	4,688	2,546	192	1,953	3,039	1,479	1,551	2,334
2014	9,368	4,536	2,577	153	1,816	2,596	1,274	1,322	2,234
2013 — 1	818	381	207	16	159	247	120	126	190
2	829	386	210	16	161	250	122	128	192
3	849	396	215	16	165	256	125	131	197
4	883	412	223	17	171	267	130	136	205
5	842	392	213	16	163	254	124	130	195
6	877	408	222	17	170	265	129	135	203
7	900	420	228	17	175	272	132	139	209
8	716	333	181	14	139	216	105	110	166
9	746	348	189	14	145	225	110	115	173
10	887	413	224	17	172	268	130	137	206
11	859	400	217	16	167	260	126	132	199
12	856	399	217	16	166	259	126	132	199
2014 — 1	787	383	218	13	153	217	106	110	188
2	815	396	226	13	158	224	110	114	195
3	811	394	225	13	157	223	110	114	194
4	835	406	231	13	162	230	113	117	200
5	853	414	236	14	165	234	115	119	204
6	863	419	239	14	167	237	116	121	206
7	811	394	225	13	157	223	110	114	194
8	668	324	185	11	130	184	90	93	160
9	709	344	196	11	137	195	96	99	169
10	757	368	210	12	147	208	102	106	181
11	726	353	201	12	141	200	98	102	173
12	733	341	185	14	142	221	108	113	170
2015 — 1	661	321	183	11	128	182	89	93	158
2	627	305	174	10	122	172	85	88	150
3	661	321	183	11	128	182	89	93	158
4	716	348	198	11	138	197	97	100	171
5	627	305	174	10	122	172	85	88	150
6	746	363	207	12	145	205	101	104	178
7	709	344	196	11	137	195	96	99	169

資　　料：（一社）日本絹人繊織物工業会。
備　　考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。
Source　：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.
Remarks　：Spun and mixed fabrics included .
Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item / 年月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,821	90.3	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,526	93.5	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,479	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	13,914	89.9	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,930	71.4	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	11,661	117.4	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	9,944	96.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	10,062	101.2	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	9,368	93.1	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2013 — 1	818	102.1	25,024	83.7	4,453	93.0	54,617	105.4
2	829	101.3	41,930	109.3	4,632	82.2	52,253	80.3
3	849	102.0	37,110	98.3	4,306	81.2	55,771	89.7
4	883	106.1	38,904	92.1	5,498	97.9	61,790	107.1
5	842	97.2	34,916	104.9	4,794	78.5	59,581	104.8
6	877	98.9	40,887	94.6	4,694	88.0	49,312	103.6
7	900	103.9	36,717	91.8	5,023	84.1	46,098	97.5
8	716	96.4	30,707	96.6	3,564	81.9	43,162	94.1
9	746	103.8	39,079	98.7	4,974	100.4	45,834	102.1
10	887	100.8	32,162	87.6	4,960	82.8	53,507	95.9
11	859	97.6	39,338	102.7	4,170	83.5	56,868	100.6
12	856	100.8	36,677	90.9	4,724	96.3	51,793	95.8
2014 1	787	96.2	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	815	98.3	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	811	95.5	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	835	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	853	101.3	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	863	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	811	90.1	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	668	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	709	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	757	85.3	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	726	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	733	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 1	661	84.0	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	627	76.9	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	661	81.5	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	716	85.7	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	627	73.5	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	746	86.4	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	709	87.4	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8			27,192	90.3	3,122	93.1		
9			28,540	82.3	3,270	66.6		

資　料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人繊織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。
備　考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。
Source　: Japan Silk &Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.
Remarks　: Since Jan.2006, sash livings are included in sash production.

(20)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item / 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing＆footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts ＆sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2013 － 1	288,934	2.1	12,301	▲ 6.4	28	▲ 89.8	5,208	▲ 6.0	2,592	▲ 3.3	1,110	▲ 1.4
2	268,099	0.1	9,117	3.3	194	▲ 49.2	4,053	9.5	1,647	7.6	738	0.8
3	316,166	4.1	13,271	9.1	138	▲ 7.3	6,177	11.2	2,357	16.1	848	▲ 3.2
4	304,382	0.8	11,762	0.6	134	41.1	4,557	3.6	2,512	3.2	868	▲ 7.1
5	282,366	▲ 1.9	12,400	7.0	231	86.3	4,077	7.3	2,956	6.7	1,142	6.5
6	269,418	▲ 0.1	12,139	8.3	419	147.9	4,088	12.7	2,933	6.3	1,130	▲ 3.3
7	286,098	1.0	11,876	▲ 0.4	194	▲ 18.8	4,091	4.3	3,174	0.4	1,224	▲ 4.8
8	284,646	▲ 0.5	8,829	2.3	71	▲ 81.4	2,857	6.4	2,193	6.4	984	2.5
9	280,692	5.2	9,180	8.8	182	▲ 3.2	3,457	19.2	1,936	3.2	807	▲ 3.6
10	290,676	2.3	12,483	2.4	246	0.8	5,123	10.5	2,595	1.4	1,043	▲ 7.6
11	279,546	2.1	13,741	▲ 0.5	94	▲ 82.8	5,663	5.0	2,593	2.0	1,404	1.6
12	334,433	2.7	13,974	1.2	187	8.7	5,639	1.2	2,554	3.2	1,490	▲ 2.4
2014 － 1	297,070	2.8	14,736	19.8	632	2,157.1	6,424	23.3	2,868	10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	9.3	14,955	12.7	168	21.7	6,719	8.8	2,534	7.5	1,166	37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	1.3	12,141	0.0	322	▲ 23.2	4,130	1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	5.4	226	218.3	3,105	8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	11.2	809	0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	1.0
11	280,271	0.3	14,110	2.7	119	26.6	5,959	5.2	2,748	6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	2.2	82	▲ 56.1	5,734	1.7	2,574	0.8	1,702	14.2
2015 － 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	0.1	11,552	2.6	144	▲ 59.1	4,135	13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4

資料:総務省統計局「家計調査報告」。２人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考：「被服及び履物」は右に並ぶ内訳４項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statitics Bureau,MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing＆footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts＆sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

ー資料・海外ー

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区　分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	7,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	971,570

区　分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1　日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2　シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1Figures ofJapan are based on the data of the Agricultural Production Bureau,MAFF.
Figures of China are based on the data of the China Silk Association.
Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.
Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).
Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).
2 As the figures of Vietnam(since2004) is not reported ,that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区　分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区　分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1　日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2　シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures ofJapan are based on the data of the Agriculyural Production Bureau,MAFF.
Figures of China are based on the data of the China Silk Association.
Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.
Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).
Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).
2 As the figures of Vietnam(since2004) is not reported ,that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2015年8月　平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		108.73 ～ 120.00	2,175 ～ 2,400
2	玉繭(double cocoon)		89.40 ～ 95.93	1,788 ～ 1,919
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	99.80 ～ 113.35	1,996 ～ 2,267
4	ビス(bisu)		82.10 ～ 89.35	1,642 ～ 1,787
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	311.95 ～ 315.93	6,239 ～ 6,319
6	生糸(raw silk)	21d、検験局検査	313.45 ～ 319.15	6,269 ～ 6,383
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	305.00 ～ 309.00	6,100 ～ 6,180
8	玉糸(doupion silk)	110d	293.23 ～ 303.08	5,865 ～ 6,062
9	土糸(native silk)	110d	277.50 ～ 286.00	5,550 ～ 5,720
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	29.21 ～ 30.88	584 ～ 618
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	24.79 ～ 27.29	496 ～ 546
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	41.13 ～ 45.63	823 ～ 913
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	46.54 ～ 49.04	931 ～ 981
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	39.75 ～ 41.42	795 ～ 828
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	32.75 ～ 34.59	655 ～ 692

注:1元=20円

2015年9月　平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		104.94 ～ 116.90	1,994 ～ 2,221
2	玉繭(double cocoon)		87.36 ～ 93.36	1,660 ～ 1,774
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	98.00 ～ 108.60	1,862 ～ 2,063
4	ビス(bisu)		228.94 ～ 88.04	4,350 ～ 1,673
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	308.02 ～ 311.90	5,852 ～ 5,926
6	生糸(raw silk)	21d、検験局検査	308.94 ～ 313.26	5,870 ～ 5,952
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	301.40 ～ 304.80	5,727 ～ 5,791
8	玉糸(doupion silk)	110d	290.28 ～ 299.36	5,515 ～ 5,688
9	土糸(native silk)	110d	275.76 ～ 284.88	5,239 ～ 5,413
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	28.77 ～ 30.43	547 ～ 578
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	24.63 ～ 27.23	468 ～ 517
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	40.20 ～ 45.40	764 ～ 863
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	46.30 ～ 48.70	880 ～ 925
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	39.43 ～ 41.17	749 ～ 782
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	32.60 ～ 34.33	619 ～ 652

注:1元=19円
資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表
Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(4)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year （9～8月） (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production （トン）(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production （kg）	生糸生産量 Raw Silk Production （俵換算） (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	435,500 (101%)	7,258

資料：ブラタク製糸株式会社
　注：（）内は対前年比
〔 〕内の見込みは2015年4月現在
Source: Fiação de Seda Brtac S.A
Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.
　　Estimates are as of April 2015.

※「シルクレポート」の記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

http://www.silk-teikei.jp

シルクレポート　2015 年 11 月号 NO.45　　平成 27 年 11 月 1 日発行

編集 / 発行　**一般財団法人大日本蚕糸会**
蚕糸・絹業提携支援センター
（問い合わせ先）　〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階
TEL：03-3214-3500
FAX：03-3214-3511
URL:http://www.silk-teikei.jp
製本／印刷　株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず